水素エネルギー

Weekly Intelligence Report

2026-07-04 | 42件 | 13カ国

troy-technical.jp

今週のキーワード

水素経済加速

大規模プロジェクトと政策が牽引

42	13	31.3	250
件	カ国	%	億ドル
記事数	対象国	H2変換効率	AI電源投資

今週の全42記事 — 5軸評価で読むべき記事を選ぶ

各列の見方 — 技術新規性：ブレークスルー度合い 実用化距離：製品として使える近さ 市場インパクト：業界全体への影響規模
データ信頼性：定量データ・査読の有無 日本関連度：日本の企業・サプライチェーンとの直接的関連性

#	記事タイトル	種別	技術新規性	実用化距離	市場インパクト	データ信頼性	日本関連度	一行サマリ
#01	グリーン水素製鉄	技術応用	●●●○	●●●○	●●●●	●●●○	●●●●	グリーン水素製鉄がCO2排出量を最大95%削減し、鉄鋼業界の脱炭素化を加速。HYBRITが実証中。
#02	Ballard、GeoPura買収	企業戦略	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●○○	Ballard Power SystemsがGeoPura買収で水素インフラ分野を拡大、定置型電力ソリューションを強化。
#03	Ballard、GeoPura買収完了	企業戦略	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●○○	Ballard Power SystemsがGeoPura買収契約を締結し、定置型水素電力市場に本格参入。EaaSモデルを提供。
#04	独、太陽光H2効率31.3%	学術ブレークスルー	●●●●	●●○○	●●●●	●●●●	●●●○	ドイツの研究者が太陽光直接変換でグリーン水素効率31.3%を達成。商業化に向け大きく前進。
#05	スペイン最大H2プラント	プロジェクト進捗	●●○○	●●●●	●●●○	●●●●	●●○○	スペイン最大の25 MWグリーン水素プラントが試運転開始。年間2,800トン生産し産業脱炭素化に貢献。
#06	英政府、ITM Power出資	政策支援	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●●○	英国政府がITM Powerへの戦略的株式保有を増加。低炭素製造と水素セクターへの信頼を強化。
#07	Ballard株価急上昇	市場動向	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●○○	Ballard Power Systemsの株価が急上昇。GeoPura買収や新契約で水素銘柄への関心が再燃。
#08	スペインH2PJに資金	政策支援	●●○○	●●●●	●●●○	●●●●	●●○○	スペイン政府がBPとイベルドローラのカステリョン・グリーン水素プロジェクトに2.4億ドルのIPCEI資金を承認。
#09	NEOM H2PJ稼働開始	プロジェクト進捗	●●○○	●●●○	●●●●	●●●○	●●●●	サウジアラビアNEOMグリーン水素プロジェクトが2026年半ば稼働開始。世界最大の生産施設が欧州・世界へ供給。
#10	欧州H2市場、REDIII複雑化	市場分析	○○○○	●●●●	●●●●	●●●○	●●○○	欧州低炭素水素市場はREDIII指令の不均一な転置で投資が複雑化。政策的支援は依然魅力的。
#11	Stegra、H2-DRI製鉄	技術応用	●●●○	●●●○	●●●●	●●●○	●●●●	Stegraが年間250万トン生産能力の700 MW電解槽統合型H2-DRIグリーン製鉄モデルを発表。
#12	ITM Power役員買い増し	企業動向	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●●○	ITM Power取締役が172,000株買い増し。経営陣のグリーン水素企業への強い信頼を示す。
#13	イベルドローラ、H2PJ試運転	プロジェクト進捗	●●○○	●●●●	●●●○	●●●●	●●○○	イベルドローラとbpの合弁会社がスペイン最大の25 MWグリーン水素プラントの試運転を開始。
#14	FuelCell、DC向け契約	新製品/契約	●●●○	●●●●	●●●●	●●●○	●●●○	FuelCell EnergyがFit Energy USAとデータセンター向け最大380 MW燃料電池システム供給契約を締結。
#15	インド、H2認証制度開始	政策・制度	○○○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●○○	インド政府がグリーン水素の認証とトレーサビリティを強化する新ポータルと制度を開始。

#	記事タイトル	種別	技術新規性	実用化距離	市場インパクト	データ信頼性	日本関連度	一行サマリ
#16	独、太陽光H2効率31.3%	学術ブレークスルー	●●●●	●●○○	●●●●	●●●●	●●●○	ドイツの研究者が太陽光直接変換で31.3%の水素生産効率を達成。クリーンエネルギーに貢献。
#17	Air Products、NEOM注力	企業戦略	●●○○	●●●○	●●●●	●●●○	●●●●	Air Productsが米国プロジェクトを一部中止し、サウジアラビアNEOMグリーン水素プロジェクトに注力。
#18	クロアチアH2プラント	プロジェクト進捗	●●○○	●●●○	●●○○	●●●○	○○○○	クロアチアINA社がリイェカ製油所にグリーン水素プラントの太陽光発電所を完成。電解槽は年末設置予定。
#19	南アeSAF施設、JM技術	技術応用	●●●○	●●●○	●●●●	●●●○	●●●○	Phelan Green Hydrogenが南アフリカeSAF施設向けにJohnson Mattheyの技術ライセンスを取得、28億ドル投資。
#20	Brookfield/Bloom、AI電源	企業提携	●●●○	●●●●	●●●●	●●●●	●●●○	BrookfieldとBloom EnergyがAIインフラ向け電源パートナーシップを250億ドルに拡大。SOFCでオンサイト発電強化。
#21	インド、原子力H2生産	技術ブレークスルー	●●●●	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	インドが原子力プロセス熱を利用した世界初の水素生産施設を開設。クリーン水素生産に新たな道。
#22	Plug Power、電解槽稼働	製品導入	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●○○	Plug PowerがデンマークのEuropean Energy社向け5MW PEM電解槽システムを稼働開始。
#23	ITM Power、独鉄道とLOI	企業提携	●●○○	●●●○	●●●○	●●○○	●●●○	ITM Powerがドイツ鉄道子会社とグリーンエネルギーソリューションに関するLOIを締結。鉄道脱炭素化を推進。
#24	米DOE、H2ハブ推進	政策・計画	●●○○	●●●○	●●●●	●●●●	●●○○	米国エネルギー省がハートランド水素ハブの最新情報を公開。低炭素肥料生産を推進し農業脱炭素化へ。
#25	Orica、H2ハブにFID	プロジェクト進捗	●●○○	●●●○	●●●○	●●●●	●●●○	Oricaが豪州ハンターバレー水素ハブに最終投資決定。年間4,700トン再生可能水素生産へ。
#26	Ballard、GeoPura買収	企業戦略	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●○○	Ballard Power Systemsが英国GeoPuraを約4億ドルで買収し、定置型水素電源市場を強化。
#27	川重、欧州LH2サプライチェーン	企業提携	●●●●	●●●○	●●●●	●●●●	●●●●	ダイムラー・トラック、MB Energy、川崎重工が欧州向け液化水素サプライチェーン構築で提携。
#28	カナダ、天然H2提言	政策提言	●●●○	●●○○	●●●○	●●●○	●●○○	Element One Hydrogenがカナダの政策枠組みに天然（ホワイト）水素の包含を提言。供給源多様化へ。
#29	ITM Power株価目標修正	企業動向	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●●○	ITM Powerの株価目標が上方修正。英国プロジェクト進捗とドイツ鉄道との提携が評価される。
#30	米DOE、H2コスト目標	政策・計画	●○○○	●●●●	●●●●	●●●●	●●●○	米国エネルギー省が水素・燃料電池技術多年度プログラム計画を更新し、2026年までのコスト目標を明示。
#31	川重、遠心式H2圧縮機	新技術	●●●●	●●●○	●●●●	●●●●	●●●●	川崎重工が水素液化プラント向け世界初の遠心式水素圧縮機のデモンストレーションを開始。
#32	中国、H2を一次エネルギーに	政策転換	●○○○	●●●●	●●●●	●●●○	●●●●	中国が水素エネルギーを初めて一次エネルギーデータ分類に組み込み、産業の政策転換を加速。
#33	川重、1,900億円超調達計画	企業戦略	●●●●	●●●○	●●●●	●●●●	●●●●	川崎重工が先進製造・液化水素サプライチェーン投資に向け1,900億円超の資金調達計画を報じられる。
#34	Air Liquide、SK hynix支援	企業投資	●●○○	●●●○	●●●●	●●●○	●●●○	Air LiquideがSK hynixの米国AIチップ製造支援へ1億7,000万ドル超を投資し、産業ガスを供給。
#35	ケベック州、天然H2推進	政策・計画	●●●○	●●○○	●●●○	●●●○	●●○○	ケベック州が長期エネルギー戦略で地質学的（天然）水素を推進。2050年までに開発プロジェクトを支援。
#36	Bosch/川重、オフハイウェイH2	企業提携	●●●○	●●●○	●●●○	●●○○	●●●●	Bosch Rexrothと川崎重工がオフハイウェイ機械向け水素燃料電池で提携。重機の脱炭素化を目指す。
#37	Orica、H2ハブにFID	プロジェクト進捗	●●○○	●●●○	●●●○	●●●●	●●●○	オーストラリアOrica社がHunter Valley水素ハブに最終投資決定。天然ガス使用量7.5%削減へ。

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#38	Verde、中国に電解槽供給	製品導入	●●○○○	●●●●○	●●●○○	●●●○○	●●○○○	Verde HydrogenがChina Coal Energy Groupから中国オフグリッド・グリーン水素PJ向けに25MW電解槽供給契約を獲得。
#39	インド、H2認証ポータル	政策・制度	●○○○○	●●●●●	●●●○○	●●●○○	●●○○○	インドがグリーン水素の信頼性を高める「グリーン水素認証ポータル（GHCI）」を立ち上げ。
#40	Brookfield/Bloom、AI電源	企業提携	●●●○○	●●●●○	●●●●●	●●●●○	●●●○○	BrookfieldとBloom EnergyがAIデータセンター向け電力供給提携を250億ドルに拡大。SOFCでオンサイト発電強化。
#41	Plug Power、Q1決算	企業業績	●○○○○	●●●●●	●●○○○	●●●●○	●○○○○	Plug Powerが2026年第1四半期決算で売上高1.63億ドルを達成し、EPS予想を上回る-0.08ドルを報告。
#42	FuelCell、EXIM融資	資金調達	●○○○○	●●●●●	●●○○○	●●●○○	●○○○○	FuelCell Energyが米国クリーンエネルギー輸出推進のためEXIM銀行から4,900万ドルの融資を確保。

●●●●○ High ●●●○○ Med-High ●●○○○ Med ●○○○○ Low | 背景黄色＝注目記事

今週、判断に影響しうる3つの問い

❶あなたの会社は「グリーン水素製鉄」の波に乗れるか？

グリーン水素を用いた製鉄技術がCO2排出量を最大95%削減し、鉄鋼業界を抜本的に変革する可能性が示されています。HYBRITのような先駆的プロジェクトが実証を進め、再生可能電力価格の下落や電解槽技術の低コスト化が移行を強力に推進しています。日本の製鉄メーカーや関連素材サプライヤーは、この技術が自社のサプライチェーンに与える影響を早急に評価する必要があります。

❷AIデータセンターの電力需要急増に、燃料電池は「本命」となるか？

BrookfieldとBloom EnergyがAIインフラ向け電源パートナーシップを250億ドルに拡大し、FuelCell Energyもデータセンター向けに最大380MWの契約を締結しました。AIの爆発的普及による電力需要増大と送電網の制約に対し、オンサイト燃料電池発電がクリーンで信頼性の高い解決策として注目されています。日本のデータセンター事業者や燃料電池関連企業は、この市場動向を注視し、戦略を再考すべきです。

❸液化水素サプライチェーンの国際競争で、日本は主導権を握れるか？

川崎重工がダイムラー・トラック等と欧州向け液化水素サプライチェーン構築で提携し、世界初の遠心式水素圧縮機のデモンストレーションを開始しました。1,900億円超の資金調達計画も報じられており、液化水素の効率的な製造・輸送技術は国際競争の鍵となります。日本の重工業・エネルギー企業は、この技術優位性をいかにグローバル展開し、サプライチェーン全体を構築していくか、戦略的な判断が求められます。

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」マトリクス

項目	象限	↑ 機会	↓ 脅威
● 川重LH2	機会大	LH2サプライチェーン構築	—
● 太陽光H2	機会大	H2製造コスト減	—
● 原子力H2	機会大	H2製造多様化	—
● AI電源	注意	DC向けFC需要	電力供給競争激化

● H2製鉄	注意	新製鉄技術導入	既存設備陳腐化
● NEOM H2	注意	H2/NH3安定調達	競争激化/供給過剰
● 米H2目標	注意	米市場参入機会	コスト競争激化
● 中国H2政策	脅威大	—	中国競争力向上

深掘り ① — 川崎重工、液化水素サプライチェーンを牽引

#27 | 2026/06/29 | Daimler Truck | 技術新規性●●●●○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○
データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●●

川崎重工業は、Daimler Truck、MB Energyと共同で、ハンブルク港を経由した欧州向け液化水素（LH2）サプライチェーン構築のJDAを締結しました。これは、Daimler Truckの液体水素燃料電池トラックの2030年代初頭の量産を支援するもので、川崎重工は液化装置、貯蔵タンク、運搬船などの基幹インフラ技術を提供します。

同社はまた、水素液化プラント向けに世界初の遠心式水素圧縮機のデモンストレーション試験を開始し、超高速回転機器と新開発インペラで高効率・省スペースを実現。さらに、先進製造と液化水素サプライチェーン投資に1,900億円超の資金調達計画も報じられており、日本の重工業がグローバルな水素インフラ構築を主導する動きが加速しています。

▶ 技術者の視点

川崎重工の液化水素サプライチェーン構築へのコミットメントは非常に高く評価できます。特に世界初の遠心式水素圧縮機は、液化コスト削減の鍵となる技術であり、その実用化が待たれます。ただし、液化水素は極低温維持に多大なエネルギーを要するため、サプライチェーン全体でのエネルギー効率とコスト最適化が依然として大きな課題となります。 【機会】日本の材料メーカーは、極低温対応の断熱材や高耐久性合金、シール材などの開発で貢献できる。部品メーカーは、圧縮機や液化装置の構成部品、センサー技術などで参入機会がある。 【脅威】グローバルな液化水素サプライチェーンはまだ確立途上であり、他国企業との競争も激化する。技術開発の遅れやコスト競争力で劣ると、国際的な主導権を失うリスクがある。 【アクション】R&D;部門は、川崎重工との連携を強化し、極低温材料や高効率圧縮技術の共同開発を加速すべき。経営企画部門は、液化水素の国際輸送ルートと需要予測を精査し、長期的なサプライチェーン戦略を策定すること。

深掘り ② — 太陽光直接変換でグリーン水素効率31.3%達成

#04 | 2026/07/02 | Economies.com | 技術新規性●●●●● 実用化距離●●○○○ 市場インパクト●●●●○
データ信頼性●●●●● 日本関連度●●●○○

ドイツのフラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所が、太陽光を直接水素燃料に変換する技術で31.3%という世界最高水準の高効率を達成しました。これは、高効率太陽電池とPEM電解技術を組み合わせることで、従来の二段階プロセスにおけるエネルギー変換ロスを最小限に抑える画期的なアプローチです。

このブレークスルーは、グリーン水素製造の経済性と実用性を飛躍的に向上させ、大規模な炭素フリー水素製造の商業的実現可能性を大きく高めます。ドイツ政府の水素戦略投資の成果であり、モジュール化やスケーラビリティの観点からも有望視され、分散型水素製造システムへの応用が期待されます。

▶ 技術者の視点

31.3%という効率は学術的には非常に優れた成果であり、グリーン水素製造コスト削減に直結する重要な進展です。ただし、これは研究室レベルでの達成であり、大規模化や長期安定性、耐久性、そして実際の屋外環境での性能維持が商業化に向けた大きな課題となります。特に、高効率を維持するための材料劣化抑制や、システム全体のコスト最適化が重要です。 【機会】日本の材料メーカーは、高効率光電極触媒材料や高耐久性PEM膜、電解槽材料の開発で貢献できる。R&D;部門は、この技術をベンチマークとして、自社の水素製造技術開発を加速すべき。 【脅威】欧州がグリーン水素製造技術で先行する可能性があり、日本の技術競争力が相対的に低下するリスクがある。低コスト化が進むと、日本の水素輸入戦略にも影響が出かねない。 【アクション】R&D;部門は、フラウンホーファーISEの論文を詳細に分析し、要素技術の追随・応用研究に着手すること。経営企画部門は、将来的なグリーン水素の国際価格動向を予測し、日本の水素戦略への影響を評価すること。

深掘り ③ — AIデータセンターの電力危機を救う燃料電池

#20 | 2026/06/30 | Business Wire | 技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●● データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●○○

Bloom　EnergyとBrookfieldは、AIインフラ向け電源プロジェクトへの融資枠を50億ドルから250億ドルへと5倍に拡大しました。これは、AIワークロードの急増によるデータセンターの電力需要に対応するため、Bloom Energyの固体酸化物燃料電池（SOFC）技術を用いたオンサイト発電インフラを加速させるものです。

SOFCは天然ガス、バイオガス、水素など多様な燃料から高効率に電力を供給でき、電力網の制約を回避しつつ、迅速かつ信頼性の高い分散型電力ソリューションを提供します。この提携は、AI時代の電力課題を解決し、データセンターの脱炭素化と電力レジリエンス強化に貢献する上で極めて重要です。

▶ 技術者の視点

AIデータセンターの電力需要は予測をはるかに超えており、既存の電力インフラでは対応しきれない状況が顕在化しています。燃料電池によるオンサイト発電は、この課題に対する現実的な解決策の一つです。ただし、SOFCは高温作動型であり、起動時間や耐久性、燃料多様性（特に純水素利用時）における課題も残ります。天然ガス改質による水素供給が主流となる可能性も考慮すべきです。 【機会】日本の燃料電池メーカーや関連部品メーカーは、データセンター向けの高効率・高信頼性燃料電池システムや、排熱利用技術、水素供給インフラの提供で大きなビジネスチャンスがある。 【脅威】海外企業がAIデータセンター市場での燃料電池ソリューションを先行して確立する可能性があり、日本の技術が市場に食い込めないリスクがある。電力供給のボトルネックは、日本のAI開発やデータセンター誘致にも影響を及ぼす。 【アクション】半導体PKG・EV設計部門は、AIデータセンターの電力要件と燃料電池技術の適合性を評価し、自社製品への応用可能性を検討すること。R&D;部門は、SOFCの耐久性向上や燃料多様化、システム統合技術の開発を加速すべき。経営企画部門は、データセンター事業者との連携を模索し、共同で実証プロジェクトを推進すること。

その他の注目記事

米DOE、水素・燃料電池技術多年度プログラム計画を更新し、コスト目標を明示

●○○○○ ●●●●● ●●●●○

米国DOEが2026年までに水素製造コスト1kgあたり2ドル、電解槽システムコストkWあたり250ドルという具体的な目標を設定。グローバルな水素技術開発競争を加速させる。

中国、水素エネルギーを初めて一次エネルギーデータ分類に組み込み、産業の政策転換を加速

●○○○○ ●●●●● ●●●●●

中国が水素を国家の基礎エネルギーカテゴリに位置付け、政策補助金から市場志向へ転換。世界最大のエネルギー市場における水素経済の加速は、日本の競争環境に大きな影響を与える。

グリーン水素製鉄がCO2排出量を最大95%削減、鉄鋼業界を抜本的に変革へ

●●●○○ ●●●○○ ●●●●○

グリーン水素DRI製鉄がCO2排出量を最大95%削減し、鉄鋼業界の脱炭素化を加速。日本の製鉄メーカーは技術導入とサプライチェーン再編を急ぐ必要あり。

サウジアラビアNEOMグリーン水素プロジェクトが2026年半ば稼働開始、世界最大の生産施設が欧州・世界へ供給

●●○○○ ●●●○○ ●●●●●

世界最大級のNEOMプロジェクトが稼働開始。年間60万トンのグリーンアンモニアが欧州・世界へ供給され、グローバルな水素・アンモニア貿易に大きな影響を与える。

インド、原子力プロセス熱を利用した世界初の水素生産施設を開設

●●●●● ●●○○○ ●●●●○

原子力プロセス熱を利用した世界初の水素生産施設がインドで稼働。クリーン水素の新たな安定供給源として、再生可能エネルギーの変動性を補完する可能性を秘める。

今週のアクション提案

記事評価マトリクスと機会/脅威分析を踏まえたアクション提案です。

即時（今週中）

- 【R&D;】ドイツの太陽光直接変換水素製造技術（31.3%効率）に関するフラウンホーファーISEの論文を詳細に調査し、要素技術の評価を開始。
- 【経営企画】AIデータセンターの電力需要急増と燃料電池ソリューションの動向を把握するため、関連市場レポートを収集・分析。
- 【調達】サウジアラビアNEOMプロジェクトからのグリーンアンモニア供給開始時期と価格動向を注視し、将来的な調達戦略への影響を評価。

短期（1ヶ月）

- 【R&D;/半導体PKG】AIデータセンター向け燃料電池システムの技術課題（耐久性、燃料多様性）を特定し、自社技術との連携可能性を検討。
- 【製鉄/R&D;】グリーン水素製鉄（H2-DRI）技術の導入可能性について、CO2排出削減効果とコストを試算し、既存設備との比較評価を実施。
- 【経営企画/調達】中国の水素エネルギー一次エネルギー分類への変更が、日本の水素関連産業の競争環境に与える影響を分析し、戦略的対応を検討。

中長期（四半期〜）

- 【R&D;/重工】川崎重工の液化水素サプライチェーン構築における遠心式圧縮機技術の進展を注視し、極低温材料や高効率圧縮技術に関する共同開発・提携の可能性を模索。
- 【経営企画/R&D;】原子力プロセス熱利用水素製造技術の動向を継続的にモニタリングし、将来的なクリーン水素供給源の多様化に向けた研究開発ロードマップを検討。
- 【全社】グローバルな水素経済の進展に対応するため、社内の水素関連技術ロードマップを更新し、投資計画と人材育成計画を策定。

troy-technical.jp 独自キュレーション。記事著作権は各原著作者に帰属。 | Gemini API + Claude | 2026-07-04

水素エネルギー 採用記事全文集

出力日: 2026-07-04

採用記事数: 42 件

収録記事一覧

#01 グリーン水素製鉄がCO2排出量を最大95%削減、鉄鋼業界を抜本的に変革へ

#02 Ballard Power Systems、GeoPura買収計画で水素インフラ分野の役割を拡大

#03 Ballard Power Systems、英GeoPuraの最終買収契約締結で定置型水素電力市場に本格参入

#04 ドイツの研究者が太陽光直接変換でグリーン水素効率31.3%を達成、商業化に前進

#05 スペイン最大の25 MWグリーン水素プラントが試運転開始、年間2,800トン生産へ

#06 英国政府のITM Powerへの戦略的株式保有増加が低炭素製造と水素セクターへの信頼を強化

#07 Ballard Power Systemsの株価が急上昇、トレーダーの関心再燃で水素銘柄に注目

#08 スペイン、BPとイベルドローラのカステリョン・グリーン水素プロジェクトに2.4億ドル（2.11億ユーロ）のIPCEI資金再配分を承認

#09 サウジアラビアNEOMグリーン水素プロジェクトが2026年半ば稼働開始、世界最大の生産施設が欧州・世界へ供給

#10 欧州低炭素水素市場、REDIII指令の不均一な転置が投資を複雑化

#11 Stegraが年間250万トン生産能力の700 MW電解槽統合型H2-DRIグリーン製鉄モデルを発表

#12 ITM Power取締役Warren East氏が172,000株買い増し、経営陣のグリーン水素企業への強い信頼を示す

#13 イベルドローラとbpの合弁会社、スペイン最大の25 MWグリーン水素プラント試運転開始

#14 FuelCell Energy、Fit Energy USAとデータセンター向け最大380 MW燃料電池システム供給契約を締結

#15 インド政府、グリーン水素の認証とトレーサビリティを強化する新ポータルと制度を開始

#16 ドイツの研究者が太陽光直接変換で31.3%の水素生産効率を達成、クリーンエネルギーに貢献

#17 Air Products、米国クリーン水素プロジェクトを一部中止し、サウジアラビアNEOMグリーン水素プロジェクトに注力

#18 クロアチアINA社、リイェカ製油所にグリーン水素プラントの太陽光発電所を完成

#19 Phelan Green Hydrogen、南アフリカeSAF施設向けにJohnson Mattheyの技術ライセンスを取得、28億ドル投資

#20 BrookfieldとBloom Energy、AIインフラ向け電源パートナーシップを250億ドルに拡大

#21 インド、原子力プロセス熱を利用した世界初の水素生産施設を開設

#22 Plug Power、デンマークのEuropean Energy社向け5 MW PEM電解槽システムを稼働開始

#23 ITM Power、ドイツ鉄道子会社とグリーンエネルギーソリューションに関するLOIを締結

#24 米国エネルギー省、ハートランド水素ハブの最新情報を公開し、低炭素肥料生産を推進

#25 Orica、豪州ハンターバレー水素ハブに最終投資決定、年間4,700トン再生可能水素生産へ

#26 Ballard Power Systems、英国GeoPuraを約4億ドルで買収し、定置型水素電源市場を強化

#27 ダイムラー・トラック、MB Energy、川崎重工が欧州向け液化水素サプライチェーン構築で提携

#28 Element One Hydrogen、カナダの政策枠組みに天然（ホワイト）水素の包含を提言

#29 ITM Power、英国プロジェクト進捗と提携により株価目標が上方修正

#30 米国エネルギー省、水素・燃料電池技術多年度プログラム計画を更新し、コスト目標を明示

#31 川崎重工、水素液化プラント向け世界初の遠心式水素圧縮機のデモンストレーションを開始

#32 中国、水素エネルギーを初めて一次エネルギーデータ分類に組み込み、産業の政策転換を加速

#33 川崎重工、先進製造・液化水素サプライチェーン投資に向け1,900億円超の資金調達計画

#34 Air Liquide、SK hynixの米国AIチップ製造支援へ1億7,000万ドル超を投資

#35 ケベック州、長期エネルギー戦略で地質学的（天然）水素を推進、2050年までに開発プロジェクトを支援

#36 Bosch Rexrothと川崎重工がオフハイウェイ機械向け水素燃料電池で提携

#37 オーストラリアOrica社、年間4,700トン生産のHunter Valley水素ハブに最終投資決定 ― 天然ガス使用量7.5%削減へ

#38 Verde Hydrogen、China Coal Energy Groupから中国オフグリッド・グリーン水素PJ向けに25MW電解槽供給契約を獲得

#39 インド、グリーン水素の信頼性を高める「グリーン水素認証ポータル（GHCI）」を立ち上げ

#40 BrookfieldとBloom EnergyがAIデータセンター向け電力供給提携を250億ドルに拡大、SOFCでオンサイト発電強化

#41 Plug Power、2026年第1四半期決算で売上高1.63億ドルを達成し、EPS予想を上回る-0.08ドルを報告

#42 FuelCell Energy、米国クリーンエネルギー輸出推進のためEXIM銀行から4,900万ドルの融資を確保

#01 グリーン水素製鉄がCO2排出量を最大95%削減、鉄鋼業界を抜本的に変革へ

公開日 2026年06月25日　CleanTechnica　アメリカ

概要

グリーン水素を用いた製鉄技術は、石炭を再生可能エネルギー由来の水素に置き換えることで、鉄鋼産業におけるCO2排出量を最大95%削減する可能性を秘めています。この直接還元鉄（DRI）経路は、電解槽で生成されたグリーン水素を活用し、既にHYBRITのような先駆的プロジェクトが実証を進めています。再生可能電力価格の下落、電解槽技術の低コスト化、炭素価格設定の拡大が、この持続可能な移行を強力に推進しています。

詳細

主要成果

グリーン水素を用いた製鉄技術が、鉄鋼生産プロセスにおけるCO2排出量を最大95%削減する可能性を示し、業界の脱炭素化に向けた抜本的な変革をもたらすことが報じられています。この革新的なアプローチは、伝統的な高炉製鉄で用いられる石炭を、再生可能エネルギー由来の水素に置き換えることを核としています。

技術詳細

このグリーン製鉄は、主に直接還元鉄（DRI）経路を採用します。具体的には、電解槽で生成されたクリーンなグリーン水素を還元剤として使用し、鉄鉱石から酸素を除去します。これにより、従来製鉄プロセスで大量に排出されていたCO2の発生をほぼ完全に抑制することが可能です。例えば、スウェーデンのHYBRITプロジェクト（SSAB, LKAB, Vattenfallの合弁事業）では、既にグリーン水素を用いたDRIプラントが建設され、その技術的・経済的実現可能性が検証されています。このプロセスでは、還元時に水蒸気のみが発生し、クリーンな鉄が生産されます。

背景・業界文脈

鉄鋼産業は、セメント産業と並び、世界で最もCO2排出量の多い産業の一つであり、世界のエネルギー関連排出量の約7〜9%を占めるとされています。これまで脱炭素化が困難な「ハード・トゥ・アベート」分野とされてきましたが、グリーン水素技術の進展が新たな道を開いています。近年、太陽光や風力といった再生可能エネルギーの発電コストが大幅に低下し、それに伴い電解槽の技術も成熟し、製造コストが低減しています。さらに、欧州を中心に炭素価格設定メカニズムが拡大しており、CO2排出量に費用が課されることで、グリーン製鉄のような低炭素技術への投資インセンティブが高まっています。

今後の展望

グリーン水素製鉄の導入は、鉄鋼メーカーにとって環境規制への対応だけでなく、持続可能なサプライチェーンを構築し、市場競争力を高める上で極めて重要です。現在、欧州、北米、アジア各地で複数のグリーン製鉄プロジェクトが計画・進行中であり、今後10年で商業規模での導入が加速すると予測されています。この動きは、自動車、建設、家電など、鉄鋼を主要材料とする幅広い産業に波及し、最終的にはサプライチェーン全体の脱炭素化に貢献することが期待されます。

元記事: https://blurase.com/how-dollar-industry-green-steel-manufacturing-2026/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#02 Ballard Power Systems、GeoPura買収計画で水素インフラ分野の役割を拡大

公開日 2026年07月01日　Kalkine Media　カナダ

概要

Ballard Power Systemsは、英国のGeoPura社の買収計画を通じて、水素インフラ分野での役割を戦略的に拡大しようとしています。この動きは、商業顧客向けのより広範なクリーンエネルギープラットフォームを構築し、収益源を多様化することを目的としています。市場は現在、長期的な水素導入を支えるための評価、実行、規模に注目しており、BallardのGeoPura統合が市場の信頼を試す試金石となります。

詳細

主要成果

Ballard Power Systemsは、英国のGeoPura社の買収計画を発表し、これにより水素インフラおよび定置型電力ソリューション市場での事業拡大と収益源の多様化を目指しています。この戦略的買収は、Ballardが燃料電池技術の提供だけでなく、水素製造から供給、発電までを統合したエンドツーエンドのエネルギーソリューションプロバイダーへと進化する上で重要な一歩となります。

技術・事業詳細

GeoPuraは、ゼロエミッションの水素電力ソリューションを専門とし、特にイベントや建設現場向けのオフグリッド水素発電ユニットを提供しています。Ballardは、GeoPuraのサービス・アズ・ア・サービス（EaaS）モデルを自社の燃料電池技術と組み合わせることで、水素製造、ロジスティクス、燃料補給、燃料電池発電までをカバーする統合プラットフォームを構築します。これにより、Ballardは燃料電池モジュールのサプライヤーから、顧客向けの包括的なクリーンエネルギーシステムプロバイダーへと変貌を遂げ、特に定置型およびオフグリッド電力市場での存在感を高めることができます。

背景・業界文脈

クリーンエネルギーへの世界的な移行が加速する中で、水素は脱炭素化が困難な産業や、安定したオフグリッド電力供給が求められる分野で重要な役割を果たすと期待されています。Ballardのような燃料電池メーカーは、その技術的優位性を活かしつつ、市場の需要に応えるためにバリューチェーン全体でのサービス提供を模索しています。GeoPuraの買収は、このような市場の変化に対応し、より包括的なソリューションを提供することで、競争力を強化するための戦略的な動きと言えます。この買収は、Ballardのポートフォリオを多様化し、将来の成長機会を捉えるための重要な投資です。

今後の展望

GeoPuraの買収は、Ballard Power Systemsが燃料電池技術の商業化を加速し、定置型およびオフグリッド電力市場で確固たる地位を築くための基盤となります。市場は、この統合が長期的な水素導入をどの程度促進し、Ballardの収益成長にどう貢献するかを注視しています。特に、インフラの展開規模、サービス提供の効率性、およびコスト競争力が、Ballardが描くクリーンエネルギープラットフォームの成功の鍵を握ると考えられます。この動きは、水素経済の実現に向けた業界全体の動向にも大きな影響を与える可能性があります。

元記事: https://kalkinemedia.com/ca/news/top-stories/ballard-power-systems-tsxbldp-tests-hydrogen-market-confidence-now

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#03 Ballard Power Systems、英GeoPuraの最終買収契約締結で定置型水素電力市場に本格参入

公開日 2026年06月27日　Insider Monkey　アメリカ

概要

Ballard Power Systemsは、英国のゼロエミッション水素電力ソリューションプロバイダーであるGeoPura Limitedの買収に関する最終契約を締結しました。この買収により、Ballardは定置型およびオフグリッド電力分野での存在感を高め、水素製造、ロジスティクス、燃料補給、燃料電池、発電を統合したエネルギー・アズ・ア・サービス（EaaS）モデルを提供します。これにより、同社は燃料電池モジュールサプライヤーから包括的なソリューションプロバイダーへと移行します。

詳細

主要成果

Ballard Power Systemsは、英国を拠点とするゼロエミッション水素電力ソリューションプロバイダー、GeoPura Limitedの買収に関する最終契約を締結しました。この戦略的な動きにより、Ballardは急速に成長する定置型およびオフグリッド水素電力市場における地位を大幅に強化し、同社の事業モデルを拡張します。

技術・事業詳細

GeoPuraは、水素を燃料とするモバイルおよび定置型発電ユニットを開発・展開しており、建設現場、イベント、バックアップ電源など、多岐にわたる用途でクリーンな電力供給を実現しています。今回の買収を通じて、BallardはGeoPuraの成功したエネルギー・アズ・ア・サービス（EaaS）モデルを自社の燃料電池技術と統合します。これにより、水素の製造、輸送ロジスティクス、効率的な燃料補給インフラの構築、そして高性能燃料電池による発電までを網羅する、真にエンドツーエンドのソリューションを提供可能となります。この統合モデルは、顧客に対してクリーンな電力を利用しやすい形で提供し、運用の簡素化とコスト削減に貢献します。

背景・業界文脈

世界のエネルギー転換において、脱炭素化が困難な分野でのクリーン電力ソリューションの需要が高まっています。特に、遠隔地や一時的な電力需要に対応するオフグリッド市場では、ディーゼル発電機に代わる持続可能な選択肢が強く求められています。水素を燃料とする発電は、排出物ゼロで静音性にも優れるため、これらのニーズに応える理想的なソリューションです。Ballardはこれまで主に燃料電池モジュールの開発・製造に注力してきましたが、GeoPuraの買収により、製品単体ではなく、システム全体としての価値提供へと戦略の軸足を移します。これは、より大きな市場シェアを獲得し、顧客との長期的な関係を構築するための重要なビジネスモデル転換となります。

今後の展望

GeoPuraの統合は、Ballard Power Systemsにとって新たな成長経路を切り開くものです。定置型およびオフグリッド市場は、脱炭素化目標とグリッド安定化のニーズに後押しされ、今後数年間で大幅な拡大が見込まれています。Ballardは、統合されたEaaSモデルを通じて、新たな商業顧客層を獲得し、既存の燃料電池製品の需要を促進することが期待されます。この動きは、水素経済の実現に向けた業界全体の競争環境にも影響を与え、他の燃料電池技術企業やエネルギーソリューションプロバイダーにも同様の統合戦略を促す可能性があります。Ballardの成功は、より広範な水素インフラ投資と技術革新を刺激するでしょう。

元記事: https://www.insidermonkey.com/blog/how-ballard-power-systems-inc-bldp-uses-geopura-to-move-deeper-into-stationary-hydrogen-power-1790529/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#04 ドイツの研究者が太陽光直接変換でグリーン水素効率31.3%を達成、商業化に前進

公開日 2026年07月02日　Economies.com　ドイツ

概要

ドイツの研究者らが、太陽光を直接水素燃料に変換する技術において、31.3%という高効率を達成し、グリーン水素の商業的実現可能性を大きく高めました。フラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所のチームは、太陽電池とPEM電解技術を組み合わせることで、高価で複雑な既存のグリーン水素展開課題を解決。これにより、大規模な炭素フリー水素製造の道が開かれ、ドイツのエネルギー転換目標達成に貢献すると期待されています。

詳細

主要成果

ドイツの研究者グループが、太陽光を直接利用して水素燃料を生成するシステムで、31.3%という画期的な高効率を達成しました。この成果は、従来のプロセスと比較してグリーン水素製造の経済性と実用性を飛躍的に向上させるものであり、商業規模でのクリーン水素生産の実現に向けた重要な一歩となります。

技術詳細

この革新的なシステムは、フラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所（Fraunhofer ISE）のチームによって開発されました。彼らは、高効率の太陽電池とPEM（固体高分子形）電解技術を巧妙に組み合わせることで、太陽光エネルギーの水素への直接変換効率を最大化しました。従来のグリーン水素製造では、太陽光発電で電力を生成し、その電力を使って電解槽で水素を生成するという二段階プロセスが一般的でした。しかし、この新しい手法では、太陽電池が生成した電力を直接電解槽に供給し、光電極触媒反応を通じて水素を生成することで、エネルギー変換ロスを最小限に抑えています。この31.3%という効率は、研究レベルでの世界最高水準であり、従来の太陽光直接水素製造技術と比較して大幅な改善を示しています。

背景・業界文脈

グリーン水素は、再生可能エネルギーを利用して製造されるため、生産時にCO2を排出せず、産業の脱炭素化、モビリティ、エネルギー貯蔵など多岐にわたる分野での利用が期待されています。しかし、その製造コストや効率性が大規模商業展開の主要な障壁となっていました。特に、太陽光を直接利用するフォトエレクトロケミカル（PEC）システムや、統合型PV-電解槽システムは、効率が低く、材料コストが高いという課題を抱えていました。ドイツ政府は、水素戦略を国家目標として掲げ、グリーン水素技術の研究開発に多額の投資を行っており、今回のフラウンホーファーISEの成果は、その取り組みの具体的な成功例と言えます。

今後の展望

今回の31.3%効率達成は、グリーン水素製造の商業的実現可能性に大きな影響を与えるでしょう。高効率化は、生産コストの削減に直結し、グリーン水素を天然ガス由来のグレー水素や、CO2を回収・貯蔵するブルー水素と比較して、経済的に競争力のある選択肢へと押し上げます。フラウンホーファーISEの技術は、モジュール化やスケーラビリティの観点からも有望視されており、将来的には大規模な産業プラントや分散型水素製造システムへの応用が期待されます。このブレークスルーは、ドイツが目指すエネルギー自給と、欧州全体のネットゼロ目標達成に向けた重要な加速剤となる可能性を秘めています。

元記事: https://www.economies.com/forex/news/green-hydrogen-breakthrough-brings-germany-closer-to-commercial-viability-49202

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#05 スペイン最大の25 MWグリーン水素プラントが試運転開始、年間2,800トン生産へ

公開日 2026年07月01日　pv magazine Global　スペイン

概要

スペインのイベルドローラとbpは、bpカステリョン製油所内に建設された25 MWのグリーン水素プラントで試運転を開始しました。この合弁事業施設は、Plug Power製PEM電解槽を使用し、再生可能電力によって年間約2,800トンのグリーン水素を生産します。既存のグレー水素を代替し、EUのRFNBO（再生可能燃料・非生物起源）要件に準拠することで、スペインの産業脱炭素化と欧州のエネルギー移行目標に大きく貢献します。

詳細

主要成果

スペイン最大のグリーン水素プラントである、イベルドローラとbpの合弁事業による25 MW施設が、bpカステリョン製油所内で試運転を開始しました。このプラントは、年間約2,800トンのグリーン水素を生産する能力を持ち、スペインの産業脱炭素化目標達成に向けた重要なマイルストーンとなります。

技術・設備詳細

この先進的なグリーン水素プラントは、Plug Power製のPEM（固体高分子形）電解槽を中核技術として採用しています。PEM電解槽は、高い応答性と部分負荷運転能力に優れており、変動する再生可能電力との統合に適しています。施設は再生可能エネルギー源からの電力のみを使用して水素を生成し、これにより生産される水素は完全に「グリーン」と認定されます。年間2,800トンの生産量は、同製油所で現在使用されているグレー水素の一部を代替することを目的としており、これにより大幅なCO2排出量削減が見込まれます。このプロジェクトは、欧州連合（EU）のRFNBO（再生可能燃料・非生物起源）要件に準拠するよう設計されており、持続可能な燃料としての認定を受けています。

背景・業界文脈

スペインは、豊富な太陽光および風力資源を背景に、グリーン水素生産の主要ハブとなることを目指しています。政府は、グリーン水素開発を支援する国家戦略を策定し、大規模プロジェクトへの投資を促進しています。bpカステリョン製油所におけるこのプロジェクトは、既存の産業施設で化石燃料由来の水素をグリーン水素に置き換える「オンサイト」脱炭素化の模範例となります。これは、特にエネルギー集約型産業におけるCO2排出量削減に不可欠なアプローチであり、欧州全体のエネルギー移行戦略における重要な要素です。

今後の展望

カステリョン・グリーン水素プラントの試運転開始は、スペインが欧州におけるクリーン水素の主要生産国および輸出国となるための基盤を強化します。年間2,800トンのグリーン水素生産は、製油所だけでなく、将来的には地域の他の産業部門やモビリティ分野への供給拡大も視野に入れています。この成功は、大規模なグリーン水素プロジェクトへのさらなる投資を誘致し、水素バリューチェーン全体の発展を加速させるでしょう。イベルドローラとbpの強力な提携は、エネルギー転換における産業間の協力の重要性を示すものであり、今後も欧州内外での同様のプロジェクトの展開に注目が集まります。

元記事: https://www.pv-magazine.com/2026/07/01/tests-begin-on-spains-largest-green-hydrogen-facility/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#06 英国政府のITM Powerへの戦略的株式保有増加が低炭素製造と水素セクターへの信頼を強化

公開日 2026年06月30日　Kalkine Media　イギリス

概要

ITM Powerは、英国政府の戦略的株式保有額が増加したことで、市場の大きな注目を集めています。この動きは、英国政府が自国の低炭素製造業と水素セクターの成長に対して強い信頼を寄せていることを明確に示唆しています。同社の製造能力拡大と水素インフラ整備への取り組みは、英国のエネルギー移行における長期的な成長と中心的役割を果たす鍵となります。

詳細

主要成果

ITM Powerは、英国政府による戦略的株式保有額の増加によって、投資家および市場アナリストからの大きな関心を集めています。この政府の動きは、英国が国内の低炭素製造業、特にグリーン水素セクターの発展に対して、強いコミットメントと信頼を持っていることを明確に示しています。

技術・事業詳細

ITM Powerは、グリーン水素製造に不可欠な電解槽システムの設計と製造を専門とする、英国を代表する企業です。同社の技術は、再生可能エネルギーを利用して水を分解し、クリーンな水素を生産するもので、産業、輸送、エネルギー貯蔵など幅広い用途での脱炭素化に貢献します。英国政府による株式保有の増加は、単なる投資にとどまらず、ITM Powerの先進技術と製造能力が、国のエネルギー安全保障とネットゼロ目標達成のために戦略的に重要であると認識されていることを意味します。これにより、同社の製造施設の拡張計画や、国内での大規模な水素インフラプロジェクトへの参画がさらに加速することが期待されます。

背景・業界文脈

英国は、2050年までにネットゼロ排出量を達成するという野心的な目標を掲げ、グリーン水素をその実現に向けた主要な柱の一つとして位置づけています。この目標達成のためには、国内での水素製造能力を大幅に拡大し、関連するサプライチェーンを強化することが不可欠です。政府は、産業戦略の一環として、国内企業への投資を通じて、主要技術の国産化と産業基盤の強化を図っています。ITM Powerへの政府の関与深化は、このような国家戦略と企業戦略が合致した結果であり、公的支援がイノベーションと市場展開を加速する具体的な例と言えます。

今後の展望

英国政府のITM Powerへの投資拡大は、同社の長期的な成長見通しを大幅に強化するものです。公的資金の注入と戦略的支援は、ITM Powerが研究開発への投資を続け、電解槽のコストをさらに削減し、生産規模を拡大するための安定した基盤を提供します。これにより、同社は国際的な競争力を高め、世界のグリーン水素市場における主要プレーヤーとしての地位を確立する可能性があります。また、この動きは、他の水素関連企業やテクノロジーセクターへの政府投資のモデルケースとなり、英国全体のグリーン産業エコシステムの発展を刺激することが期待されます。

元記事: https://kalkinemedia.com/uk/stocks/industrial/why-itm-power-is-back-in-focus-as-government-stake-surges

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#07 Ballard Power Systemsの株価が急上昇、トレーダーの関心再燃で水素銘柄に注目

公開日 2026年07月03日　Zacks.com　アメリカ

概要

Ballard Power Systems（BLDP）の株価が大幅な上昇を記録し、再びトレーダーの注目を集めています。この株価の動きは、同社の製品ニュース、新たな契約獲得、戦略的パートナーシップといった企業固有のポジティブな展開と、クリーンテクノロジー市場全体への広範な関心の高まりに起因すると考えられます。今後の長期的なトレンドは、継続的な事業進捗と市場の変化への適応性にかかっています。

詳細

主要成果

Ballard Power Systems (TSX:BLDP) の株価が最近大幅に上昇し、市場における水素銘柄への関心が再燃していることを示しています。この動きは、クリーンエネルギー分野におけるBallardの戦略的地位と、同社の継続的な事業展開が投資家の注目を集めている結果です。

企業動向と市場要因

Ballard Power Systemsの株価上昇は、複数の要因が複合的に作用した結果と見られます。これには、最近発表された英国のGeoPura社の買収に関する最終契約（定置型およびオフグリッド電力市場への本格参入）、燃料電池技術に関する新たな製品発表、輸送部門での主要な契約獲得、および戦略的パートナーシップの締結などが含まれます。これらの企業固有のポジティブなニュースは、Ballardの事業成長への期待を高めました。また、世界的な脱炭素化の流れと、政府によるグリーン水素経済への支援策強化により、クリーンテクノロジーセクター全体、特に水素関連企業への投資家の関心が高まっていることも、株価を押し上げる大きな要因となっています。

背景・業界文脈

水素エネルギーは、気候変動対策とエネルギー安全保障の観点から、世界各国で戦略的に重視されています。特に、燃料電池技術は、重工業、公共交通機関、定置型発電など、多様な分野での脱炭素化ソリューションとして期待されています。Ballard Power Systemsは、長年にわたり燃料電池技術のリーダーとして認識されており、その技術はバス、トラック、列車、船舶など様々なモビリティ用途で採用されています。最近のGeoPura買収は、同社が製品供給だけでなく、水素製造から供給、発電までを統合したソリューションプロバイダーへと事業モデルを拡大する意欲を示しており、これが市場評価に好影響を与えています。

今後の展望

Ballard Power Systemsの株価がトレーダーの注目を集める一方で、長期的な成長は、同社が発表した事業計画をどれだけ効果的に実行できるかにかかっています。水素経済はまだ初期段階にあり、インフラ整備、コスト削減、技術のさらなる最適化といった課題が残されています。Ballardがこれらの課題に対応し、市場の需要に柔軟に適応しながら、継続的に収益性の高い事業進捗を示すことができれば、現在の株価の勢いを維持し、長期的な企業価値をさらに向上させることが期待されます。投資家は、今後の業績発表、技術開発のマイルストーン、および新たな契約獲得に注目していくでしょう。

元記事: https://kalkine.ca/news/energy/bldp-ballard-power-systems-rises-hydrogen-stock-back-on-traders-screens

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#08 スペイン、BPとイベルドローラのカステリョン・グリーン水素プロジェクトに2.4億ドル（2.11億ユーロ）のIPCEI資金再配分を承認

公開日 2026年06月26日　ESG News Editorial Team　スペイン

概要

スペイン政府は、BPとイベルドローラによるカステリョン・グリーン水素プロジェクトに対し、IPCEI Hy2USE資金から2億1,100万ユーロ（約2億4,000万ドル）の再配分を承認しました。この大規模な資金援助は、スペイン東部におけるグリーン水素の生産と導入を加速させ、同国の脱炭素化目標達成に大きく貢献します。この決定は、欧州全体での水素経済構築に向けた明確なコミットメントを示しています。

詳細

主要成果

スペイン政府は、BPとイベルドローラが共同で推進するカステリョン・グリーン水素プロジェクトに対して、2億1,100万ユーロ（約2億4,000万米ドル）という巨額の資金再配分を承認しました。この資金は、欧州共通利益重要プロジェクト（IPCEI）の水素関連プログラム「IPCEI Hy2USE」から拠出され、スペイン東部におけるグリーン水素製造の拡大を強力に後押しします。

プロジェクトと資金詳細

カステリョン・グリーン水素プロジェクトは、BPカステリョン製油所内に25 MWのPEM電解槽を設置し、再生可能電力を用いて年間約2,800トンのグリーン水素を生産することを目指しています。今回承認された2億1,100万ユーロのIPCEI資金は、このプロジェクトの建設費および運営費の一部を賄うために再配分されます。IPCEIスキームは、欧州連合（EU）加盟国が、共通の欧州の利益に資する大規模かつ革新的なプロジェクトを支援するための枠組みであり、特に水素のような戦略的な分野における産業発展とイノベーションを促進することを目的としています。この資金援助により、プロジェクトの経済的実行可能性が大幅に向上し、迅速な展開が可能となります。

背景・業界文脈

スペインは、豊富な再生可能エネルギー資源を背景に、欧州におけるグリーン水素生産の主要ハブとなることを目標としています。同国政府は、2030年までに4 GWの電解槽容量を導入し、年間数十万トンのグリーン水素を生産するという野心的な国家水素戦略を策定しています。BPとイベルドローラのような大手エネルギー企業が主導するプロジェクトは、このような国家目標達成の鍵となります。既存の製油所でグレー水素をグリーン水素に置き換えることは、産業部門の脱炭素化、特に「ハード・トゥ・アベート」セクターにおいて極めて重要なステップです。この資金援助は、市場リスクを軽減し、民間投資を促進するための政府の重要な役割を示しています。

今後の展望

IPCEI資金の再配分は、カステリョン・グリーン水素プロジェクトのスケジュールを加速させ、スペインのグリーン水素経済の発展に弾みをつけるでしょう。このプロジェクトは、スペインが欧州の主要なグリーン水素生産国および輸出国となるための具体的な能力を構築する上で不可欠です。成功すれば、さらなる大規模な水素プロジェクトへの投資を呼び込み、国内のサプライチェーン強化、雇用創出、技術革新の促進に繋がると期待されます。また、この資金援助は、欧州全体でグリーン水素プロジェクトを推進するためのIPCEIスキームの有効性を実証し、他の加盟国での同様のプロジェクトに対する政策支援のモデルとなる可能性も秘めています。

元記事: https://esgnews.com/bp-iberdrola-secure-240-million-boost-for-spanish-green-hydrogen-expansion/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#09 サウジアラビアNEOMグリーン水素プロジェクトが2026年半ば稼働開始、世界最大の生産施設が欧州・世界へ供給

公開日 2026年06月30日　CleanTechnica　サウジアラビア

概要

サウジアラビアのNEOMグリーン水素プロジェクト（世界最大規模）が、Air Productsの支援を受け、2026年半ば頃に稼働を開始し、来年にはグリーンアンモニア生産用の電解槽が稼働する予定です。米国の政策転換にもかかわらず、世界のグリーン水素投資は継続しており、このプロジェクトは欧州および世界の他地域へのクリーンエネルギー供給経路を明確に示します。年間約60万トンのグリーンアンモニア生産能力を持つことで、世界的な脱炭素化に貢献します。

詳細

主要成果

世界最大級のグリーン水素プロジェクトであるサウジアラビアのNEOMグリーン水素プロジェクトが、Air Productsの技術支援のもと、2026年半ば頃に初期稼働を開始する予定です。このプロジェクトは、その生産規模と戦略的位置づけから、世界のクリーンエネルギー供給網に大きな影響を与えることが確実視されています。翌年にはグリーンアンモニア生産用の電解槽が本格稼働し、年間約60万トンのグリーンアンモニアを生産する能力を持つ見込みです。

技術・規模詳細

NEOMグリーン水素プロジェクトは、太陽光と風力といった再生可能エネルギーを動力源とする約4 GW規模の電解槽を統合し、日々最大600トンのグリーン水素を生成します。この水素は、その後、グリーンアンモニアに変換され、貯蔵・輸送が容易になります。生産されたグリーンアンモニアは、主にヨーロッパをはじめとする世界の主要市場へ輸出され、クリーンな燃料や化学原料として利用される予定です。このプロジェクトは、単一の拠点におけるグリーン水素生産施設としては世界最大規模であり、その巨大な規模と統合された生産体制は、グリーン水素経済の商業的実現可能性を示す重要な指標となります。

背景・業界文脈

サウジアラビアは、石油依存からの脱却と経済多角化を目指す「ビジョン2030」の一環として、NEOMプロジェクトを推進しています。その中で、グリーン水素は、同国が再生可能エネルギー資源を活用し、世界のクリーンエネルギーリーダーとなるための重要な戦略的柱と位置づけられています。米国における水素関連政策の不確実性（例えば、前政権の政策からの転換）にもかかわらず、世界のグリーン水素市場への投資は減速しておらず、中東や欧州、アジア各国でのプロジェクト開発が活発化しています。NEOMプロジェクトは、このようなグローバルな脱炭素化の動きと、再生可能エネルギー資源が豊富な地域が持つ供給能力を示す象徴的な存在です。

今後の展望

NEOMグリーン水素プロジェクトの稼働は、世界のエネルギー移行における新たな時代の幕開けを告げるものです。年間60万トンという大量のグリーンアンモニア生産能力は、欧州の産業脱炭素化目標達成を支援し、世界のサプライチェーンにおけるクリーン燃料の選択肢を拡大します。このプロジェクトの成功は、他の中東諸国や再生可能エネルギー資源が豊富な地域における大規模グリーン水素プロジェクトの開発を加速させる触媒となるでしょう。また、大規模な水素・アンモニア輸送インフラの構築を促進し、グローバルな水素貿易ルートの確立に貢献すると期待されています。

元記事: https://cleantechnica.com/2026/06/30/green-hydrogen-neom-saudi-arabia-wind-solar-ammonia/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#10 欧州低炭素水素市場、REDIII指令の不均一な転置が投資を複雑化

公開日 2026年07月03日　Argus Media　イギリス

概要

欧州の低炭素水素市場は、EUのREDIII（再生可能エネルギー指令III）が各国で不均一に国内法制へ転置されているため、投資家にとって複雑な規制状況に直面しています。この断片化されたアプローチは、プロジェクト開発と資金調達に不確実性をもたらします。しかし、欧州の強力な政策的・規制的支援は依然として魅力的であり、プロジェクト開発者は低炭素水素の需給ダイナミクスに焦点を当てながら欧州市場をターゲットにし続けています。

詳細

主要成果

欧州の低炭素水素市場は、EUの再生可能エネルギー指令III（REDIII）の各国での異なる国内法制への転置により、投資の複雑化を招く断片的な規制状況に直面しています。この不均一な実装は、低炭素水素プロジェクトの展開において、新たな課題を提示しています。

規制と市場の課題

REDIII指令は、欧州連合（EU）の再生可能エネルギー目標を達成するための重要な政策ツールであり、特に運輸部門における再生可能燃料の利用を促進し、非生物起源の再生可能燃料（RFNBO）としての水素の役割を強化することを目的としています。しかし、各加盟国がこの指令を国内法に落とし込む過程で、その解釈や適用にばらつきが生じています。具体的には、グリーン水素の認定基準、追加性原則（新たな再生可能電力設備による水素生産義務）、送電網からの電力使用に関する要件などが国によって異なり、これにより投資家は、特定のプロジェクトの適格性や収益性を見極める上で不確実性に直面しています。この規制の断片化は、欧州域内での水素貿易やインフラ共有を阻害する可能性も指摘されています。

背景・業界文脈

欧州は、気候変動対策とエネルギー自給率向上を目指し、グリーン水素経済の構築に強力な政治的コミットメントを示しています。欧州委員会は、「Fit for 55」パッケージやREPowerEU計画を通じて、大規模な水素生産目標とインフラ整備計画を打ち出しており、これらが市場への強力なシグナルとなっています。しかし、これらの野心的な目標を達成するためには、大規模な民間投資が不可欠です。規制の明確性と一貫性は、投資家が長期的なコミットメントを行う上で最も重視する要素の一つであり、現在のREDIIIの不均一な転置は、その投資環境に影を落としています。

今後の展望

REDIII指令の不均一な転置がもたらす課題にもかかわらず、欧州市場は依然として低炭素水素プロジェクト開発者にとって魅力的なターゲットです。これは、欧州が世界で最も強力な気候変動政策と、水素に対する手厚い補助金・インセンティブ制度を提供しているためです。プロジェクト開発者は、現在の規制の複雑さを乗り越えるために、各国固有の規制要件を詳細に分析し、特定の市場ニーズに合わせた戦略を構築する必要があります。今後、EUレベルでのさらなる規制の調和や、加盟国間のベストプラクティス共有が進むことで、より安定した投資環境が形成され、欧州の水素経済が本格的に加速することが期待されます。このプロセスは、世界の他の地域における水素政策のモデルとなる可能性も秘めています。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#11 Stegraが年間250万トン生産能力の700 MW電解槽統合型H2-DRIグリーン製鉄モデルを発表

公開日 2026年06月30日　SteelRadar　スウェーデン

概要

Stegraは、スウェーデンのボーデンで建設中のH2-DRI（水素直接還元鉄）技術に基づいた、年間250万トンのグリーン鋼を生産するグリーン製鉄プラントのモデルを発表しました。この画期的な施設は、700 MWの電解槽を統合し、グリーン水素を利用することで大幅なCO2排出量削減と、熱間DRIチャージングによる運転効率向上を実現します。このプロジェクトは、鉄鋼業界の脱炭素化を加速する重要なマイルストーンとなります。

詳細

主要成果

Stegraは、スウェーデンのボーデンで建設中の画期的なグリーン製鉄プラントのモデルを発表しました。このプラントは、H2-DRI（水素直接還元鉄）技術を基盤とし、700 MWの電解槽を統合することで、年間250万トンのグリーン鋼を生産する能力を持ちます。これにより、従来の製鉄プロセスと比較して、CO2排出量を大幅に削減することが可能となります。

技術・設備詳細

Stegraが採用するH2-DRI技術は、鉄鉱石を還元する際に石炭やコークスではなくグリーン水素を使用するものです。プラントに統合される700 MWの電解槽は、再生可能エネルギー源から供給される電力を用いて水素を生成し、その場でDRIプロセスに供給します。この「Power-to-X」アプローチにより、水素の輸送コストや貯蔵の課題を最小限に抑えつつ、効率的なグリーン水素の利用が可能となります。さらに、この施設では、直接還元された熱間DRIを電気炉（EAF）に直接チャージする「熱間チャージング」が採用されており、これによりエネルギー効率が大幅に向上し、全体の生産コストとCO2排出量の一層の削減に貢献します。年間250万トンという生産能力は、商業規模でのグリーン鋼供給におけるStegraの主要な役割を示しています。

背景・業界文脈

鉄鋼産業は、世界のCO2排出量の約7〜9%を占める主要な排出源であり、脱炭素化が最も困難な「ハード・トゥ・アベート」セクターの一つです。スウェーデンを含む多くの国が、気候変動目標達成のため、グリーン製鉄技術の開発と導入に多額の投資を行っています。Stegraのような先進的なプロジェクトは、このようなグローバルな脱炭素化の動きと、鉄鋼業界の持続可能性へのコミットメントを象徴するものです。北欧地域は、豊富な再生可能エネルギー資源と、水素製造に適したインフラを持つため、グリーン水素ベースの産業プロジェクトにとって理想的な立地となっています。

今後の展望

Stegraのボーデン・プラントの稼働は、グリーン製鉄技術の商業的実現可能性を世界に示す重要な事例となるでしょう。年間250万トンのグリーン鋼供給は、自動車、建設、機械などの主要産業における持続可能なサプライチェーン構築に大きく貢献します。このプロジェクトの成功は、他国の鉄鋼メーカーにもH2-DRI技術への投資を促し、世界の鉄鋼産業全体の脱炭素化を加速させることが期待されます。また、電解槽製造、水素供給、再生可能エネルギー開発といった関連産業にも波及効果をもたらし、広範なグリーン経済の成長を促進するでしょう。

元記事: https://www.steelradar.com/en/haber/stegra-presented-its-green-steel-production-model-based-on-hydrogen-based-dri-technology/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#12 ITM Power取締役Warren East氏が172,000株買い増し、経営陣のグリーン水素企業への強い信頼を示す

公開日 2026年07月01日　Morningstar / Alliance News　イギリス

概要

ITM Powerの非執行取締役であるWarren East氏が、同社株式172,000株を買い増したことが報じられました。この役員による自己株取得は、グリーン水素製造用電解槽システムを設計・製造するITM Powerに対する経営陣の強い信頼を示しています。今回の取引は、同社の将来性および水素経済における成長ポテンシャルへの確信を裏付けるものです。

詳細

主要成果

ITM Powerの非執行取締役であるWarren East氏が、同社株式を172,000株買い増したことが報告されました。この内部取引は、グリーン水素製造用電解槽システムを設計・製造するITM Powerの事業戦略と将来性に対する経営陣の強い信頼を示すものです。

詳細内容

2026年7月1日に実施されたこの取引は、ITM Powerの取締役会メンバーが、会社の株式を積極的に取得していることを明らかにしました。Warren East氏は、既に同社の非執行取締役として事業に深く関与しており、今回の追加購入は、彼が会社の長期的な見通しと、水素経済におけるITM Powerの中心的役割に確信を持っていることを示す具体的な行動です。一般的に、役員による自己株取得は、企業内部の者が会社の株価が過小評価されている、あるいは将来の成長に大きな可能性があると見ているシグナルとして、市場でポジティブに受け止められます。ITM Powerは、水電解技術のパイオニアであり、再生可能エネルギーを効率的に水素に変換する技術は、世界の脱炭素化目標達成に不可欠です。

背景・業界文脈

グリーン水素市場は、政府からの強力な政策支援と、エネルギー転換への世界的なコミットメントに後押しされ、急速な成長期にあります。ITM Powerは、この成長市場で主要なプレーヤーとしての地位を確立しており、大規模な電解槽プロジェクトへの供給を通じてその存在感を高めています。英国政府も、国内の水素産業を育成し、低炭素製造能力を強化するための戦略的な投資を行っており、先日の英国政府によるITM Powerへの戦略的株式保有額増加もこの文脈で理解できます。Warren East氏のような経験豊富な経営者による自己株取得は、このような良好な事業環境と企業の堅実な基盤を反映していると言えます。

今後の展望

Warren East氏による自己株買い増しは、ITM Powerに対する市場の信頼感を高め、株価にポジティブな影響を与える可能性があります。これは、同社が今後もグリーン水素技術のイノベーションと商業化を推進し、世界のエネルギー転換における重要な役割を果たすというメッセージを投資家に送るものです。ITM Powerは、電解槽の生産能力拡大、技術コストの削減、およびグローバルパートナーシップの構築を通じて、持続可能な成長を目指しています。役員による内部取引は、これらの目標達成に向けた経営陣の結束と確信を市場に示す強力な指標となり、長期的な投資家にとって魅力的な材料となるでしょう。

元記事: https://investing.thisismoney.co.uk/rns/news/36025351

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#13 イベルドローラとbpの合弁会社、スペイン最大の25 MWグリーン水素プラント試運転開始

公開日 2026年07月01日　pv magazine Global　スペイン

概要

イベルドローラとbpの合弁会社Castellón Green Hydrogenは、カステジョン製油所で出力25 MWのグリーン水素プラントの試運転を開始しました。この施設はPlug Power製5 MW PEM電解槽モジュール5基で構成され、年間約2,800トンのグリーン水素を生産し、製油所のグレー水素需要を代替します。欧州連合のNextGenerationEUからの資金援助を受け、2026年末までにスペイン最大規模のグリーン水素施設となる見込みです。このプロジェクトは、欧州の産業脱炭素化とグリーン水素経済の確立に向けた重要な一歩となります。

詳細

主要成果

イベルドローラとbpの合弁事業であるCastellón Green Hydrogenが、スペインのカステジョン製油所において、出力25 MWを誇るグリーン水素プラントの試運転を開始しました。この大規模施設は、2026年末までにスペイン最大のグリーン水素生産拠点となる予定であり、年間約2,800トンのグリーン水素を供給し、製油所における既存のグレー水素を代替することで、CO2排出量の大幅な削減に貢献します。

技術・臨床詳細

このプラントは、最先端のPlug Power製5 MW PEM（プロトン交換膜）電解槽モジュール5基で構成されており、再生可能エネルギー由来の電力を用いて水を電気分解することで、高純度のグリーン水素を効率的に製造します。PEM電解槽は、コンパクトな設計と迅速な起動・停止能力が特徴であり、変動する再生可能エネルギー源との統合に特に適しています。プラントはカステジョン製油所の既存インフラに統合され、水素の直接利用を可能にすることで、サプライチェーンの効率化も図られています。

背景・業界文脈

本プロジェクトは、スペインと欧州連合が掲げる野心的な脱炭素化目標とグリーン水素戦略の核をなすものです。欧州連合の復興基金であるNextGenerationEUイニシアチブからの重要な資金援助を受けており、エネルギー転換を加速させるための公的支援が不可欠であることを示しています。産業界、特に製油所のようなエネルギー多消費型産業におけるグリーン水素への切り替えは、CO2排出量削減の大きなポテンシャルを秘めています。この取り組みは、化石燃料依存からの脱却と、持続可能な産業運営への移行を象徴するものです。

今後の展望

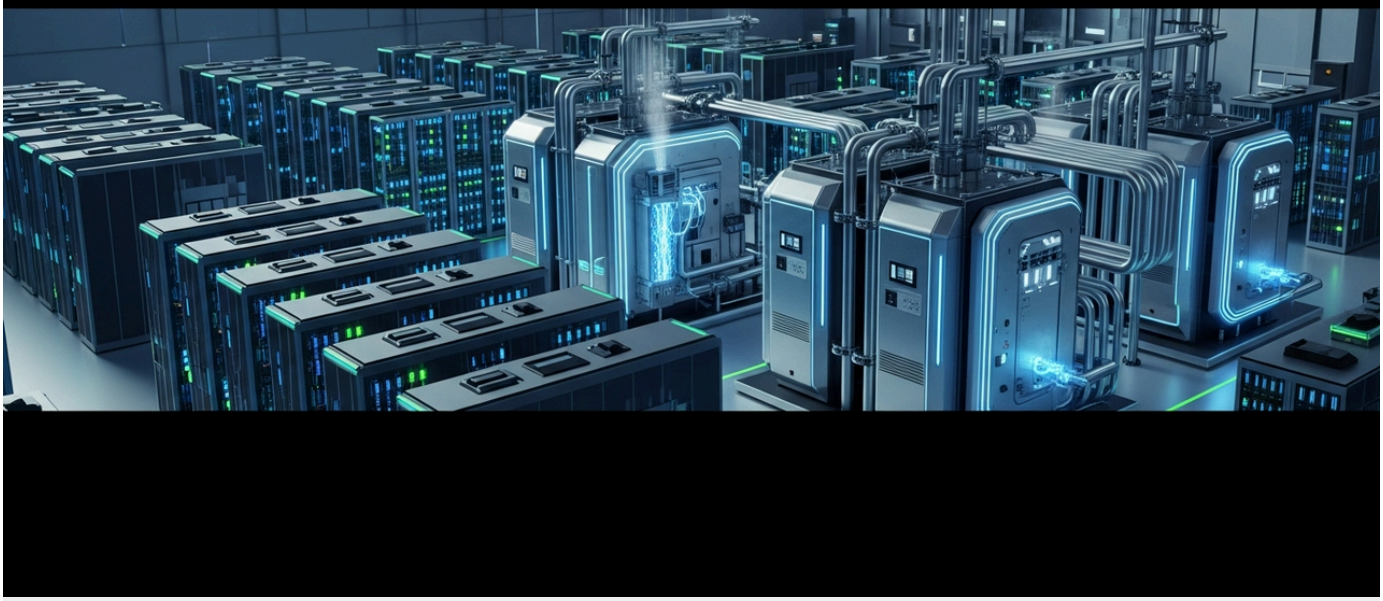
この施設の稼働は、スペインのグリーン水素経済確立に向けた重要なマイルストーンとなります。Castellón Green Hydrogenは、製油所での水素利用を皮切りに、将来的には他の産業部門やモビリティ分野へのグリーン水素供給拡大も視野に入れています。このような大規模プロジェクトの成功は、欧州全体のグリーン水素導入を加速させ、技術の商業的実現可能性を証明するモデルケースとなるでしょう。国内外からのさらなる投資と技術革新を促し、水素社会の実現に向けた強力な推進力となることが期待されます。

元記事: https://www.pv-magazine.com/2026/07/01/tests-begin-at-spains-largest-green-hydrogen-facility/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#14 FuelCell Energy、Fit Energy USAとデータセンター向け最大380 MW燃料電池システム供給契約を締結

公開日 2026年06月26日　Baxtel　アメリカ



概要

米国のFuelCell Energyは、Fit Energy USAとデータセンター向けオンサイト燃料電池発電システムの供給に関する拘束力のある契約を締結し、最大380 MWの燃料電池を展開する可能性を示しました。この契約には、初期の30 MWに対する前払い金が含まれており、同社にとって過去最大級の燃料電池導入となる見込みです。AIインフラ需要の急増に対応する信頼性の高い電源ソリューションとして、FuelCell Energyはデータセンター市場での地位を強化しています。

詳細

主要成果

米国の水素燃料電池開発企業であるFuelCell Energyは、Fit Energy USAとの間で、データセンター向けオンサイト燃料電池発電システムを最大380 MW供給する拘束力のある契約を締結しました。この画期的な契約は、FuelCell Energyにとってこれまでで最大級の燃料電池導入案件となる可能性を秘めており、初期の30 MWに対する前払い金がすでに含まれています。

技術・臨床詳細

FuelCell Energyが提供する燃料電池システムは、独自の溶融炭酸塩型燃料電池（MCFC）技術を基盤としており、天然ガスやバイオガス、水素など多様な燃料源から高効率に電力を供給することができます。データセンター向けには、電力網から独立したオンサイトでの連続運転が可能で、高い電力信頼性とエネルギー効率を提供します。これにより、AI処理に必要な膨大な電力需要に対応しつつ、熱電併給（CHP）による排熱利用も可能で、総合的なエネルギー効率を向上させることができます。

背景・業界文脈

近年、生成AIや大規模言語モデルの進化により、データセンターの電力消費量は爆発的に増加しており、高速で信頼性の高い電源ソリューションの確保が喫緊の課題となっています。従来の電力網では供給能力や安定性に限界がある中で、オンサイトでクリーンな電力を生成できる燃料電池は、データセンター事業者にとって魅力的な選択肢です。FuelCell EnergyとFit Energy USAの提携は、この市場ニーズに応えるものであり、データセンターの脱炭素化と電力レジリエンス強化に貢献します。

今後の展望

今回の契約締結は、FuelCell EnergyがAIインフラ市場において重要なプレーヤーとしての地位を確立する上で戦略的な意義を持ちます。最大380 MWという規模は、データセンターのエネルギー転換において燃料電池技術が果たす役割の大きさを明確に示しています。今後、データセンターのグローバルな拡大に伴い、FuelCell Energyの技術はさらなる需要を獲得し、分散型電源およびクリーンエネルギーソリューションの主流となる可能性を秘めています。この成功は、同社の技術が大規模かつミッションクリティカルな用途で信頼されていることの証です。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#15 インド政府、グリーン水素の認証とトレーサビリティを強化する新ポータルと制度を開始

公開日 2026年06月26日　Tarun IAS　インド

概要

インドの新再生可能エネルギー省は、国家グリーン水素ミッションの一環として「インドグリーン水素認証ポータル（GHCI）」と「グリーン水素認証制度（GHCS）」を立ち上げました。この制度は、再生可能エネルギー源から製造された真のグリーン水素の生産、認証、利用を促進することを目的としています。認定されるグリーン水素は、水素1kgあたりの二酸化炭素排出量が2kg CO_2eを超えないという厳格な基準を満たす必要があります。この動きは、インドがクリーンエネルギーへの移行を加速し、持続可能な水素経済を確立するための重要な一歩となります。

詳細

主要成果

インドの新再生可能エネルギー省は、国家グリーン水素ミッションの下、グリーン水素のトレーサビリティと信頼性を確保するための「インドグリーン水素認証ポータル（GHCI）」と「グリーン水素認証制度（GHCS）」を正式に開始しました。この新制度は、再生可能エネルギー源のみを用いて製造されたグリーン水素の生産、認証、および使用を促進することを目的としています。

技術・臨床詳細

GHCSによって認定されるグリーン水素は、厳格な環境基準を満たす必要があります。具体的には、水素1kgあたりのライフサイクル全体での二酸化炭素排出量が2kg CO_2e（CO_2換算トン）を超えてはならないと定められています。この基準は、水素生産プロセスにおける温室効果ガス排出を最小限に抑えることを保証するためのものです。GHCIポータルは、認証申請の受付、評価プロセスの管理、認定されたグリーン水素の登録と公開を一元的に行い、透明性と信頼性を高めます。

背景・業界文脈

インドは、急速な経済成長に伴うエネルギー需要の増加と、気候変動への対応という二重の課題に直面しています。国家グリーン水素ミッションは、これらの課題に対処するため、インドをグリーン水素のグローバルハブと位置づけることを目指しています。認証制度の導入は、市場参加者に対してグリーン水素の定義を明確にし、消費者や産業界が排出量削減目標を達成するための信頼できるツールを提供します。これにより、国内外からの投資を呼び込み、グリーン水素の生産と消費を加速させる基盤が整います。

今後の展望

GHCSとGHCIポータルの導入は、インドのグリーン水素エコシステム構築において極めて重要なステップです。この制度は、グリーン水素市場の信頼性を高め、国際的な貿易基準への適合を促進することで、インド産グリーン水素の輸出競争力向上にも寄与するでしょう。国内では、製鉄、アンモニア製造、輸送などの主要産業におけるグリーン水素の利用が加速し、インドの脱炭素化目標達成に大きく貢献することが期待されます。これは、持続可能なエネルギー未来に向けたインドの強いコミットメントを示すものです。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#16 ドイツの研究者が太陽光直接変換で31.3%の水素生産効率を達成、クリーンエネルギーに貢献

公開日 2026年07月02日　Economies.com　ドイツ

概要

ドイツの研究者チームが、太陽光を直接水素燃料に変換する画期的な技術を開発し、31.3%という高効率を達成しました。フライブルクのフラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所の科学者たちは、太陽電池とPEM電解技術を組み合わせたシステムにより、この世界最高水準の変換効率を実現しました。この技術革新は、グリーン水素製造のコストと複雑さを大幅に削減し、よりクリーンな産業エネルギーシステムへの移行を加速する可能性を秘めています。

詳細

主要成果

ドイツの研究者チームが、太陽光を直接水素燃料に変換する新たな手法において、31.3%という画期的な高効率を達成しました。この成果は、既存の太陽電池技術とPEM（プロトン交換膜）電解技術を巧妙に組み合わせたシステムによって実現され、グリーン水素製造の効率と経済性を大幅に改善するものです。

技術・臨床詳細

この革新的なシステムは、フライブルクのフラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所の科学者たちによって開発されました。彼らは、高効率な太陽光発電セルで生成された電力を、直ちに統合されたPEM電解槽で水電解に利用する設計を採用しました。この直接変換アプローチにより、送電損失やエネルギー変換段階での非効率性を最小限に抑えることが可能となります。31.3%という変換効率は、従来の手法と比較して大幅な向上を示しており、太陽光エネルギーから水素を生成する際のエネルギー損失を著しく低減させます。これにより、システムの設置面積と運用コストの削減にも寄与します。

背景・業界文脈

グリーン水素は、エネルギー転換の中核を担うと期待されていますが、その製造コストと効率が普及の大きな課題でした。特に、太陽光発電と電解槽を別々に設置し、グリッドを介して接続する既存の方法は、システム全体の効率や経済性に課題を抱えていました。本研究で達成された直接変換の高効率化は、この課題に対する強力な解決策を提示し、グリーン水素製造の商業的実現可能性を大きく引き上げます。これは、再生可能エネルギー源からの水素生産を加速し、産業界や輸送部門の脱炭素化を推進するための重要なステップとなります。

今後の展望

31.3%という変換効率の達成は、グリーン水素産業に新たな展望をもたらします。この技術は、大規模な分散型水素生産施設の展開を可能にし、遠隔地や電力網が未整備な地域での水素製造にも応用できる可能性があります。今後の研究では、長期的な安定性、スケーラビリティ、さらなるコスト削減が焦点となるでしょう。このドイツの研究成果は、世界的なクリーンエネルギー目標達成に向けた重要な一歩であり、再生可能水素の未来を大きく形作る可能性を秘めています。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#17 Air Products、米国クリーン水素プロジェクトを一部中止し、サウジアラビアNEOMグリーン水素プロジェクトに注力

公開日 2026年06月30日　PR Newswire　アメリカ

概要

Air Productsは、米国ルイジアナ・クリーン・エナジー・コンプレックス（LCEC）プロジェクトの中止を発表し、米国内のクリーン水素ポートフォリオを一部縮小する決定を下しました。この決定は、期待される経済的リターンが同社の基準を満たさなかったためとされています。一方で、同社はサウジアラビアのNEOMグリーン水素プロジェクトで生産される再生可能アンモニアのマーケティング・流通契約をYara International ASAと最終調整しており、グローバルな大型プロジェクトに戦略を集中させる方針を示しています。

詳細

主要成果

Air Productsは、米国ルイジアナ・クリーン・エナジー・コンプレックス（LCEC）プロジェクトを進めないことを発表し、米国内のクリーン水素プロジェクトポートフォリオの一部を縮小する決定を下しました。この戦略的な再調整は、特定のプロジェクトにおける期待される経済的リターンが同社の厳格な基準を満たさなかったことに起因しています。

技術・臨床詳細

LCECプロジェクトは、大規模なクリーン水素とアンモニアの生産を目的としていましたが、Air Productsは、開発速度の遅延や商業的課題に直面していました。この中止と並行して、同社はサウジアラビアのNEOMグリーン水素プロジェクトに焦点を当てています。NEOMプロジェクトは、世界最大級のグリーン水素・アンモニア製造施設となる予定で、Air ProductsはYara International ASAと連携し、そこで生産される再生可能アンモニアのマーケティングおよび流通に関する最終契約を調整中です。NEOMプロジェクトは、再生可能エネルギーを利用した大規模な電解槽技術を基盤とし、持続可能なアンモニア生産を通じて、海運や肥料産業の脱炭素化に貢献することを目指しています。

背景・業界文脈

クリーン水素市場は世界的に成長が見込まれるものの、大規模プロジェクトの資金調達、技術的な複雑さ、規制環境、そして市場の成熟度といった複数の課題に直面しています。企業は、投資回収期間やリスクを慎重に評価し、戦略的なポートフォリオの見直しを常に行っています。Air Productsの今回の決定は、特に北米市場におけるクリーン水素プロジェクトが、依然として経済的・商業的ハードルが高いことを示唆しています。一方で、NEOMのような国家主導の巨大プロジェクトは、スケールメリットと強力な政府支援により、より確実な投資機会を提供していると考えられます。

今後の展望

Air Productsの米国プロジェクト中止とNEOMへの注力は、グローバルなクリーン水素市場の複雑なダイナミクスを反映しています。企業は、地域の政策支援、市場需要、インフラ整備状況を考慮しながら、最も有望な投資機会を選別する傾向が強まっています。NEOMグリーン水素プロジェクトからの再生可能アンモニアの供給は、欧州やアジアの主要市場における脱炭素化目標達成に不可欠な役割を果たすと期待されており、Air Productsはグローバルサプライチェーンにおけるその中心的な役割を強化することを目指しています。この戦略転換は、将来の水素経済の形成において、特定の地域とプロジェクトが牽引役となる可能性を示唆しています。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#18 クロアチアINA社、リイェカ製油所にグリーン水素プラントの太陽光発電所を完成

公開日 2026年07月03日　CEEnergynews　クロアチア

概要

クロアチアのINA社は、リイェカ製油所における商業用グリーン水素生産施設の第一段階として、11 MWの太陽光発電所を完成させました。このプロジェクトは、クロアチアの国家復興・レジリエンス計画（NRRP）からの1,500万ユーロの共同融資を受けており、電解槽は2026年末までに設置予定です。年間約1,500トンのグリーン水素を生産し、主に輸送部門へ供給される見込みで、同国の脱炭素化目標達成に貢献します。

詳細

主要成果

クロアチアのエネルギー企業INA社は、リイェカ製油所における国内初の商業用グリーン水素生産施設の一部として、11 MWの太陽光発電所を完成させました。この太陽光発電所は、電解槽に再生可能電力を供給し、同社の脱炭素化戦略における重要なマイルストーンとなります。

技術・臨床詳細

このプロジェクトは、1,500万ユーロ規模の共同融資契約に基づいており、クロアチアの国家復興・レジリエンス計画（NRRP）によって支援されています。完成した11 MWの太陽光発電所は、隣接する電解槽システムへ電力を供給するために設計されており、電解槽の設置は2026年末までに完了する予定です。稼働後、この施設は年間約1,500トンのグリーン水素を生産する見込みで、生産された水素の大部分は、特に重交通や公共交通機関といった輸送部門の脱炭素化に利用される予定です。

背景・業界文脈

クロアチアは、欧州連合の気候変動目標に沿って、エネルギーミックスの脱炭素化と再生可能エネルギーへの移行を加速しています。リイェカ製油所でのグリーン水素生産は、化石燃料依存度を低減し、持続可能な燃料源を導入するためのINA社の戦略的取り組みの一環です。国家復興・レジリエンス計画からの資金援助は、このような大規模なグリーンエネルギープロジェクトの実現を可能にし、EU全体のグリーンディール目標達成に向けた加盟国の努力を支援するものです。

今後の展望

リイェカ製油所のグリーン水素プラントの完成は、クロアチアのグリーン水素経済確立に向けた重要な一歩となります。年間1,500トンという生産量は、国内の輸送部門における需要の一部を満たし、他の産業部門へのグリーン水素利用拡大の道を開く可能性があります。このプロジェクトの成功は、将来的な追加投資と水素インフラのさらなる発展を促し、クロアチアが地域におけるクリーンエネルギーリーダーとしての地位を確立する上で重要な役割を果たすでしょう。また、同様の製油所におけるグリーン水素導入のモデルケースとしても注目されます。

元記事: https://ceenergynews.com/hydrogen/the-first-phase-of-the-green-hydrogen-plant-at-the-rijeka-refinery-is-now-complete/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#19 Phelan Green Hydrogen、南アフリカeSAF施設向けにJohnson Mattheyの技術ライセンスを取得、28億ドル投資

公開日 2026年06月30日　GreenAir News　南アフリカ

概要

Phelan Green Hydrogenは、南アフリカのウェスタンケープで計画されている合成持続可能航空燃料（eSAF）施設の建設に向けて、Johnson Mattheyの先進技術ライセンスを取得しました。総投資額470億ランド（約28億ドル）と見込まれるこのプロジェクトは、2026年末までに建設を開始し、年間約35,000トンのeSAFを商業規模で生産し、主にEU/UK市場への供給を目指します。この動きは、アフリカ大陸におけるクリーン航空燃料生産を大きく加速させるものです。

詳細

主要成果

Phelan Green Hydrogenは、南アフリカのウェスタンケープ州に計画している合成持続可能航空燃料（eSAF）施設の建設に向け、Johnson Matthey（JM）の先進的な技術ライセンスを取得しました。この戦略的提携により、南アフリカは大規模なクリーン航空燃料生産の主要拠点となる一歩を踏み出します。

技術・臨床詳細

ライセンスを取得したJohnson Mattheyの技術は、再生可能エネルギー由来のグリーン水素と回収された二酸化炭素を原料としてeSAFを製造するプロセスの中核をなします。具体的には、JMのFT（フィッシャー・トロプシュ）触媒および反応器技術を活用し、高効率かつ大規模にSAFを生産することが可能になります。建設は2026年末までに開始される予定で、この施設は年間約35,000トン（約3,500万リットル）のeSAFを商業規模で生産する能力を持つことになります。生産されたeSAFは、主にEUおよびUK市場の厳格な脱炭素化要件を満たすことを目指します。

背景・業界文脈

世界の航空業界は、気候変動対策として二酸化炭素排出量削減の圧力に直面しており、持続可能航空燃料（SAF）への需要が急速に高まっています。特にeSAFは、完全に再生可能な原料から製造されるため、最も持続可能性の高い選択肢の一つとされています。Phelan Green Hydrogen Projectは、総投資額が470億ランド（約28億ドル）と見込まれる巨大プロジェクトであり、南アフリカの豊富な再生可能エネルギー資源（太陽光、風力）を活用して、グローバルなSAF供給チェーンに貢献することを目指しています。今回のライセンス取得は、プロジェクトの技術的実現可能性と信頼性を高めるものです。

今後の展望

このeSAF施設の建設は、南アフリカのクリーンエネルギー産業の発展に大きく寄与するだけでなく、グローバルな航空業界の脱炭素化において重要な役割を果たすでしょう。年間35,000トンというeSAF生産量は、国際的な航空会社が設定するSAF利用目標達成を支援し、特にEU/UK市場におけるSAF供給の多様化に貢献します。さらに、このような大規模プロジェクトは、地域の雇用創出や経済成長にも繋がる可能性があり、南アフリカが再生可能エネルギー大国としての地位を確立する上での重要なステップとなります。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#20 BrookfieldとBloom Energy、AIインフラ向け電源パートナーシップを250億ドルに拡大

公開日 2026年06月30日　Business Wire　アメリカ

概要

Bloom EnergyとBrookfieldは、AIインフラ向け電源プロジェクトへの融資枠を、従来の50億ドルから250億ドルへと5倍に拡大する戦略的パートナーシップを発表しました。この大幅な資金増額は、ハイパースケーラーやAIインフラ開発者からの高速かつ信頼性の高い電源に対する強い需要を反映しており、燃料電池パートナーシップのグローバルな成長を支援します。この提携拡大は、データセンターのエネルギー需要に対応し、クリーンで分散型の電力ソリューションを提供する上で極めて重要です。

詳細

主要成果

Bloom EnergyとBrookfieldは、AIインフラ向け電源プロジェクトに関する戦略的パートナーシップを大幅に拡大し、融資枠をこれまでの50億ドルから250億ドルへと5倍に増額することを発表しました。この巨額の資金注入は、AIインフラの急速な成長を支える電源ソリューションに対する需要の急増に対応するためのものです。

技術・臨床詳細

Bloom Energyは、固体酸化物燃料電池（SOFC）技術を基盤とした分散型発電プラットフォーム「Energy Server」を提供しています。このシステムは、天然ガス、バイオガス、水素など様々な燃料から電力を生成でき、データセンターのようなミッションクリティカルな施設に高い電力信頼性とエネルギー効率を提供します。Brookfieldの資金は、Bloom Energyの燃料電池技術を活用したオンサイト発電プロジェクトの迅速な展開を可能にし、ハイパースケーラーやAIインフラ開発者が直面する電力供給の課題を解決します。燃料電池はモジュール式でスケーラブルなため、AIデータセンターの変動する電力需要に柔軟に対応できます。

背景・業界文脈

生成AIの爆発的な普及により、データセンターの電力消費は劇的に増加しており、従来の電力網だけでは安定供給が困難になるという懸念が高まっています。この「電力のボトルネック」を解消するため、業界は分散型でクリーン、かつ信頼性の高いオンサイト電源ソリューションを求めています。Bloom Energyの燃料電池は、この要求に合致する技術として注目されており、電力網への依存を減らしつつ、持続可能な電力供給を可能にします。今回のBrookfieldとのパートナーシップ拡大は、まさにこの市場の切迫したニーズを反映したものです。

今後の展望

250億ドルという規模の融資枠は、AIインフラ市場における燃料電池技術の可能性に対する両社の強い信頼を示しています。このパートナーシップは、Bloom Energyがグローバルに事業を拡大し、データセンター向けの主要なクリーンエネルギープロバイダーとしての地位を確立する上で極めて重要です。AI技術の進化が続く限り、データセンターの電力需要はさらに増加すると予想され、このような大規模な資金提供と技術提携は、次世代のAIインフラ構築を加速させるでしょう。これにより、電力網の安定性向上と、データセンターの脱炭素化の両面で大きな貢献が期待されます。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#21 インド、原子力プロセス熱を利用した世界初の水素生産施設を開設

公開日 2026年06月27日　Hydrogen Informs　インド

概要

2026年6月27日、インド原子力エネルギー省のAjit Kumar Mohanty長官は、原子力プロセス熱を利用した世界初の水素生産施設を正式に開設しました。この施設は、原子力発電からの熱エネルギーを直接利用して水素を製造する画期的なアプローチを採用しており、クリーンな水素生産における新たな道を開きます。この進展は、インドのエネルギー安全保障の強化と、大規模な脱炭素化目標の達成に大きく貢献する可能性があります。

詳細

主要成果

インド原子力エネルギー省長官のAjit Kumar Mohanty氏が2026年6月27日、原子力プロセス熱を直接利用して水素を生産する、世界初の施設を公式に開設しました。この画期的なプロジェクトは、クリーンエネルギーとしての水素生産において、原子力からの熱利用という新しい道を開拓するものです。

技術・臨床詳細

この施設は、原子力発電所の原子炉から発生する高温のプロセス熱を利用し、水蒸気改質や高温電気分解などの熱化学サイクルを通じて水素を製造します。従来の水素製造方法である化石燃料からの改質と比較して、この方法はCO2排出をほとんど伴わず、大規模かつ安定的に水素を供給できるという大きな利点があります。特に、高温ガス炉（HTGR）などの次世代原子炉技術は、このようなプロセス熱供給に非常に適しており、高効率な水素生産が期待されます。本施設は、これらの技術の実証と最適化を目指します。

背景・業界文脈

水素は、産業、輸送、電力貯蔵など様々な分野で脱炭素化の鍵となるエネルギーキャリアとして注目されています。しかし、その製造方法によっては依然として大量のCO2を排出する「グレー水素」が大半を占めています。原子力プロセス熱を利用した水素生産は、「クリーン水素」の新たな選択肢として浮上しており、再生可能エネルギー源の変動性を補完し、ベースロード電源として安定した水素供給を可能にします。インドのような急速に経済発展する国にとって、エネルギー安全保障と環境負荷低減を両立させる上で極めて重要な技術となります。

今後の展望

世界初の原子力プロセス熱利用水素生産施設の稼働は、インドだけでなく、世界のクリーンエネルギー戦略に大きな影響を与える可能性があります。この技術が商業規模で確立されれば、原子力発電所は単なる電力供給源としてだけでなく、水素生産工場としても機能するようになり、その価値が飛躍的に高まります。インドは、この分野でのリーダーシップを通じて、エネルギー転換を加速し、持続可能な未来への道を切り開くことが期待されます。今後の実証データと技術のさらなる最適化が、この革新的なアプローチの普及を決定づける鍵となるでしょう。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#22 Plug Power、デンマークのEuropean Energy社向け5 MW PEM電解槽システムを稼働開始

公開日 2026年06月25日　Simply Wall St　デンマーク

概要

Plug Powerは、デンマークのEuropean Energy社がMåde Power-to-X（PtX）施設に設置した5 MW GenEco PEM電解槽システムの設置、試運転、引き渡しを完了しました。この施設は、デンマークにおける初期の商用規模グリーン水素プロジェクトの一つとして稼働し、年間約550メートルトンのグリーン水素を生産する予定です。生産された水素は、EUの再生不可能燃料（RFNBO）認証スキームの下で認定され、地域全体の脱炭素化目標達成に貢献します。

詳細

主要成果

Plug Powerは、欧州エナジーのデンマークMåde Power-to-X（PtX）施設において、5 MW GenEco PEM電解槽システムの設置、試運転、および引き渡しを無事完了しました。この重要なマイルストーンは、デンマークにおける初期の商用規模グリーン水素プロジェクトの一つが本格的に稼働を開始したことを意味します。

技術・臨床詳細

今回稼働した5 MW GenEco PEM電解槽システムは、Plug Powerの最新技術を結集したものであり、再生可能エネルギー源から供給される電力を用いて水を電気分解し、年間約550メートルトンの高純度グリーン水素を効率的に生産します。PEM電解槽は、その高い応答性とコンパクトな設計により、風力や太陽光発電のような変動する再生可能エネルギーとの統合に優れています。生産されるグリーン水素は、EUの再生不可能燃料（RFNBO）認証スキームの厳しい基準を満たすことが認定されており、その持続可能性が保証されています。

背景・業界文脈

デンマークは、野心的な気候変動目標を掲げ、グリーンエネルギーへの移行を強力に推進している国の一つです。特にPower-to-X戦略を通じて、再生可能電力から水素や合成燃料を製造し、産業や輸送部門の脱炭素化を目指しています。Måde PtX施設は、この国家戦略の核となるプロジェクトであり、初期の商業規模展開を通じて、技術的および経済的な実現可能性を実証する重要な役割を担います。Plug Powerのような主要技術プロバイダーとの協力は、これらの目標達成に不可欠です。

今後の展望

Måde PtX施設の稼働は、デンマークおよび欧州全体のグリーン水素経済の発展を加速させるものです。年間550メートルトンのグリーン水素供給は、地域の産業や輸送部門における化石燃料依存度を低減し、CO2排出量削減に貢献します。このプロジェクトの成功事例は、さらなる大規模なグリーン水素プロジェクトへの投資を促し、Plug PowerのPEM電解槽技術がグローバル市場で信頼されるソリューションであることを示します。将来的には、このような施設が各地に展開されることで、より持続可能なエネルギーシステムへの移行が加速されることが期待されます。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#23 ITM Power、ドイツ鉄道子会社とグリーンエネルギーソリューションに関するLOIを締結

公開日 2026年06月26日　Research the market - Halifax　ドイツ

概要

ITM Powerは、ドイツの国鉄会社Deutsche Bahn AGの子会社であるDB Systemtechnik GmbHと、輸送および重要インフラ部門向けのグリーンエネルギーソリューションに関する革新・研究パートナーシップの意向表明書（LOI）に署名しました。この提携は、鉄道輸送および関連モビリティソリューションの脱炭素化を支援するため、グリーン水素導入機会を模索し、ITMの電解槽技術のDBサイトへの適用可能性を評価するFEED調査を開始する予定です。これにより、欧州の鉄道セクターにおける水素利用が加速する可能性があります。

詳細

主要成果

ITM Powerは、ドイツの国鉄会社Deutsche Bahn AGの子会社であるDB Systemtechnik GmbHと、輸送および重要インフラ部門向けのグリーンエネルギーソリューションに関する革新・研究パートナーシップを形成する意向表明書（LOI）に署名したと発表しました。この合意は、欧州の鉄道セクターにおけるグリーン水素の導入を加速させるための重要なステップです。

技術・臨床詳細

このパートナーシップは、まずITM Powerの先進的な電解槽技術がDB Systemtechnikの鉄道インフラサイトにどのように適用できるかを評価するためのフロントエンドエンジニアリング設計（FEED）調査を開始します。ITM Powerは、高効率なPEM電解槽の設計と製造において世界をリードしており、再生可能エネルギー源から供給される電力を用いてグリーン水素を生成します。鉄道輸送および関連するモビリティソリューションの脱炭素化を支援するために、グリーン水素の導入機会、例えば水素燃料電池列車への燃料供給や、鉄道施設の電力供給への利用が検討されます。

背景・業界文脈

鉄道輸送は、その効率性から比較的低炭素な輸送手段とされていますが、さらなる脱炭素化が求められています。ディーゼル燃料を使用する路線や、電力網から独立した場所での運用において、グリーン水素燃料電池は魅力的なゼロエミッションソリューションを提供します。ドイツは、モビリティ部門の脱炭素化に積極的に取り組んでおり、Deutsche Bahnのような主要な公共交通機関がグリーン水素技術の導入を検討することは、広範な影響を持つことになります。このLOIは、研究開発段階から実用化に向けた具体的なステップを示すものです。

今後の展望

ITM PowerとDB Systemtechnikのパートナーシップは、鉄道セクターにおけるグリーン水素技術の商業的実現可能性を探る上で極めて重要です。FEED調査の結果に基づき、具体的なパイロットプロジェクトや大規模展開へと進む可能性があります。この成功は、ドイツだけでなく、欧州全体の鉄道網における水素燃料電池技術の採用を加速させ、クリーンなモビリティソリューションの普及に貢献するでしょう。ITM Powerにとっては、主要な輸送インフラ市場での技術採用を拡大する戦略的な機会となります。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#24 米国エネルギー省、ハートランド水素ハブの最新情報を公開し、低炭素肥料生産を推進

公開日 2026年06月26日　Department of Energy　アメリカ

概要

米国エネルギー省（DOE）は、ハートランド水素ハブの進捗状況を更新し、コロラド州、ミネソタ州、モンタナ州など複数の州で提案されている拠点の特定を進めていることを明らかにしました。このハブは、商業規模のクリーン水素を生産し、それを米国製低炭素窒素肥料として利用することで、地域の肥料供給を増やし、農家のコスト削減を目指します。この取り組みは、クリーンエネルギーと農業セクターの脱炭素化を同時に推進するDOEの戦略の一環です。

詳細

主要成果

米国エネルギー省（DOE）は、ハートランド水素ハブの進捗状況に関する最新情報を発表しました。この更新では、ハブの主要な開発段階が詳述され、コロラド州、ミネソタ州、モンタナ州、ノースダコタ州、サウスダコタ州、ウィスコンシン州といった米国中西部の複数の州にわたる提案された拠点の特定が進んでいることが明らかにされました。

技術・臨床詳細

ハートランド水素ハブは、商業規模でのクリーン水素生産を目的としており、特にその水素を低炭素窒素肥料の製造に利用することに焦点を当てています。このプロセスでは、再生可能エネルギー源から得られる電力を用いた電解法や、炭素回収貯留（CCS）技術を併用した天然ガス改質などにより、CO2排出量を大幅に削減した水素が生産されます。このクリーン水素は、アンモニア合成の原料として使用され、結果として「米国製低炭素窒素肥料」が製造されます。これにより、肥料製造プロセスからの排出量を削減し、農家がより持続可能な農業実践を採用できるよう支援します。

背景・業界文脈

米国は、クリーン水素の生産と利用を加速させるための「水素ハブ戦略」を推進しており、地域の産業ニーズに合わせた水素エコシステムの構築を目指しています。ハートランド水素ハブは、特に農業が盛んな中西部地域において、食糧生産とエネルギーの持続可能性を両立させるという重要な役割を担っています。肥料生産はエネルギー集約型であり、伝統的に多くのCO2を排出するため、クリーン水素への転換は農業部門の脱炭素化において極めて大きな影響を持ちます。また、国内での肥料供給を増やすことで、サプライチェーンの強靭化と農家のコスト削減にも寄与します。

今後の展望

ハートランド水素ハブの進展は、米国がクリーンエネルギーと農業の統合を進める上で重要なモデルケースとなるでしょう。このハブが完全に稼働すれば、地域の農家はより安価で持続可能な肥料を利用できるようになり、食糧生産の環境負荷を低減できます。また、クリーン水素生産技術のさらなる革新と商業化を促進し、地域経済の活性化にも繋がります。DOEのこの戦略は、水素経済の確立が単なるエネルギー問題だけでなく、産業全体の脱炭素化と経済的レジリエンス強化に貢献することを示すものです。

元記事: https://www.energy.gov/clean-hydrogen-hubs/heartland-hydrogen-hub

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#25 Orica、豪州ハンターバレー水素ハブに最終投資決定、年間4,700トン再生可能水素生産へ

公開日 2026年07月01日　H2 Tech　オーストラリア

概要

Oricaは、オーストラリアのニューサウスウェールズ州クーラガン島に建設されるハンターバレー水素ハブ（HVHH）に対し、最終投資決定（FID）を発表しました。この商業規模の再生可能水素生産施設は、既存のアンモニア製造施設と統合され、年間4,700トンの再生可能水素を生産する計画です。これにより、Oricaの天然ガス原料需要を約7.5%削減し、年間約26,600トンの低炭素アンモニア製造を可能にすることで、同社の脱炭素化目標達成に大きく貢献します。

詳細

主要成果

Oricaは、オーストラリアのニューサウスウェールズ州クーラガン島に建設されるハンターバレー水素ハブ（HVHH）について、最終投資決定（FID）を発表しました。このプロジェクトは、Oricaの既存のアンモニア製造施設と統合される商業規模の再生可能水素生産施設であり、同社の脱炭素化戦略における重要な一歩となります。

技術・臨床詳細

HVHHは、年間4,700トンの再生可能水素を生産する能力を持つように設計されています。生産されたグリーン水素は、Oricaの既存のアンモニア製造プロセスに直接供給され、天然ガスを原料とする現在のプロセスの一部を代替します。この切り替えにより、Oricaの天然ガス原料需要を約7.5%削減することが見込まれており、その結果、年間約26,600トンの低炭素アンモニアが製造可能となります。プロジェクトは、オーストラリアおよびニューサウスウェールズ州政府、そしてオーストラリア再生可能エネルギー庁（ARENA）からの支援を受けており、技術的な実現可能性と経済的持続可能性が評価されています。

背景・業界文脈

アンモニア製造は、世界的にエネルギー集約型かつCO2排出量の多い産業の一つです。グリーン水素を原料として使用することで、この産業の脱炭素化が大きく進展します。オーストラリアは、豊富な再生可能エネルギー資源を持つため、グリーン水素生産と輸出のグローバルリーダーとなる潜在力があります。Oricaのような大手企業が、既存の産業施設にグリーン水素生産を統合するFIDに踏み切ったことは、再生可能水素経済の成熟と商業的実現可能性の高まりを示すものです。これは、重工業セクター全体の脱炭素化に向けた重要なモデルケースとなるでしょう。

今後の展望

ハンターバレー水素ハブの建設と稼働は、Oricaの事業における持続可能性を大幅に向上させるだけでなく、オーストラリアのグリーン水素戦略を具体化するものです。天然ガス需要の削減と低炭素アンモニアの生産は、同社の環境目標達成に貢献し、企業の競争力を強化します。このプロジェクトは、オーストラリア国内の他の産業企業に対しても、グリーン水素技術への投資と脱炭素化への移行を促す強力なシグナルとなるでしょう。将来的には、このような統合型グリーン水素施設がさらに広がり、産業分野全体の脱炭素化を加速させることが期待されます。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#26 Ballard Power Systems、英国GeoPuraを約4億ドルで買収し、定置型水素電源市場を強化

公開日 2026年06月30日　Startup Researcher　カナダ

概要

Ballard Power Systemsは、英国を拠点とする水素電力ソリューションプロバイダーGeoPura Limitedを約4億ドル（3億110万ポンド）で買収する最終合意を発表しました。この戦略的買収により、Ballardは垂直統合型のEnergy-as-a-Serviceプロバイダーへと変革し、大規模なゼロエミッション定置型電源ソリューション市場への参入を加速させます。今回の買収は、燃料電池技術の応用範囲をモビリティから定置型電力へと拡大し、グローバルな脱炭素化に貢献するBallardのコミットメントを示すものです。

詳細

主要成果

Ballard Power Systemsは、英国を拠点とする水素電力ソリューションプロバイダーGeoPura Limitedを約4億ドル（約3億110万ポンド）で買収することに合意しました。この戦略的な買収は、Ballardを垂直統合型のEnergy-as-a-Service（EaaS）プロバイダーへと変革させ、大規模なゼロエミッション定置型電源ソリューション市場への参入を劇的に加速させます。

技術・臨床詳細

GeoPuraは、水素燃料電池を搭載したモバイルおよび定置型電源ユニットを開発・展開しており、建設現場、イベント、災害対応、データセンターのバックアップ電源など、ディーゼル発電機の代替としてクリーンな電力ソリューションを提供しています。同社の製品は、Ballardの燃料電池スタック技術を統合しており、今回の買収により、BallardはGeoPuraのシステム開発、インテグレーション、サービス提供能力を直接取り込むことができます。これにより、Ballardは、燃料電池スタックの供給からエンドユーザーへの統合ソリューション提供まで、バリューチェーン全体を管理できるようになり、市場投入までの時間を短縮し、顧客ニーズに迅速に対応できるようになります。

背景・業界文脈

世界のエネルギー市場では、脱炭素化と電力グリッドの安定性向上が喫緊の課題となっています。定置型電源市場では、特に建設、イベント、通信インフラなどの分野で、騒音や排出ガスのないクリーンな発電ソリューションへの需要が高まっています。従来のディーゼル発電機は、CO2排出や大気汚染の原因となっており、規制強化と環境意識の高まりから代替技術が求められています。GeoPuraのソリューションは、この需要に応えるものであり、Ballardの燃料電池技術がモビリティ分野だけでなく、定置型電源分野においても重要な役割を果たすことを示しています。

今後の展望

GeoPuraの買収は、Ballard Power Systemsにとって大きな成長機会をもたらします。EaaSモデルへの移行は、単なる製品販売から継続的な収益源への転換を意味し、顧客との長期的な関係構築を可能にします。約4億ドルという買収額は、この市場の潜在的な規模とBallardの戦略的意図の大きさを物語っています。今回の統合により、Ballardはクリーンで信頼性の高い定置型電源ソリューションの提供を加速させ、グローバルな脱炭素目標達成に大きく貢献する企業としての地位を確立するでしょう。これは、燃料電池技術が多岐にわたる産業で主流となるための重要な一歩となります。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#27 ダイムラー・トラック、MB Energy、川崎重工が欧州向け液化水素サプライチェーン構築で提携

公開日 2026年06月29日　Daimler Truck　日本

概要

Daimler Truck、MB Energy、および川崎重工業株式会社は、ハンブルク港を経由して欧州への液化水素サプライチェーンを確立するための共同開発契約（JDA）を締結しました。この提携は、Daimler Truckの液体水素燃料電池トラックの商業化を支援し、2030年代初頭までに量産を目指すものです。川崎重工業は、水素液化装置、液化水素貯蔵タンク、液化水素運搬船などの基幹インフラ技術を提供し、欧州の重輸送における脱炭素化を加速させます。

詳細

主要成果

Daimler Truck、MB Energy、および川崎重工業株式会社は、液化水素（LH2）をハンブルク港経由で欧州へ供給するサプライチェーンを確立するための共同開発契約（JDA）を締結しました。この画期的な提携は、重輸送部門の脱炭素化に向けた重要なステップとなります。

技術・臨床詳細

このJDAの主目的は、Daimler Truckの液体水素燃料電池トラックの商業化を支援し、2030年代初頭までにその量産を開始することです。川崎重工業は、液化水素サプライチェーンにおける複数の基幹技術を提供します。これには、大規模な水素液化装置、効率的な液化水素貯蔵タンク、そして液化水素運搬船の開発が含まれます。液体水素は、圧縮水素に比べてエネルギー密度が高く、長距離輸送や大量貯蔵に適しているため、重輸送用途において特に有利です。ハンブルク港は、欧州の主要な物流ハブとして機能し、そこからドイツおよび欧州全域への効率的な液化水素流通ネットワークが構築される予定です。

背景・業界文脈

世界的に、特に重輸送部門におけるCO2排出量削減は喫緊の課題となっています。バッテリー電気自動車（BEV）では充電時間や航続距離に課題がある長距離トラックにおいて、燃料電池技術と液体水素は有望なゼロエミッションソリューションとして浮上しています。この提携は、単一企業だけでは解決が困難なグローバルな液化水素サプライチェーンの構築という複雑な課題に対し、異なる分野のリーディングカンパニーが協力することで解決を図るものです。政府や業界団体も、液化水素インフラの整備を支援する動きを加速させています。

今後の展望

Daimler Truck、MB Energy、川崎重工業の提携は、欧州の重輸送部門の脱炭素化に劇的な影響を与える可能性を秘めています。2030年代初頭までに液体水素燃料電池トラックの量産が実現すれば、トラック輸送におけるCO2排出量を大幅に削減し、持続可能な物流システムへの移行を加速させるでしょう。川崎重工業が提供する液化水素インフラ技術は、グローバルな水素サプライチェーンの効率化と信頼性向上に貢献し、液化水素を輸送燃料として広範に普及させるための基盤を築きます。これは、エネルギー転換における国際協力の模範となるプロジェクトです。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#28 Element One Hydrogen、カナダの政策枠組みに天然（ホワイト）水素の包含を提言

公開日 2026年06月30日　Streetwise Reports　カナダ

概要

Element One Hydrogen & Critical Minerals Corp.は、カナダ政府にブリティッシュコロンビア州水素戦略に関する政策提言を提出し、天然（「ホワイト」）水素を政策および規制開発に含めることを強く提唱しました。この提言は、カナダをクリーンエネルギーのグローバルリーダーとして位置づけ、低コストかつ低炭素強度の天然水素に対する支援的な規制環境の創設を目指すものです。天然水素の活用は、水素経済の多様化と供給源の拡大に貢献する可能性を秘めています。

詳細

主要成果

Element One Hydrogen & Critical Minerals Corp.は、カナダ政府に対し、ブリティッシュコロンビア州水素戦略に関する政策提言を提出し、特に「天然（ホワイト）水素」を国の政策および規制開発に含めることの重要性を強調しました。この動きは、カナダをクリーンエネルギーのグローバルリーダーとして位置づけることを目指すものです。

技術・臨床詳細

天然水素、またはホワイト水素とは、地球内部の地質学的プロセスによって自然に生成される水素を指します。これは、電解（グリーン水素）や化石燃料改質（グレー水素、ブルー水素）といった人為的な生産プロセスとは異なります。Element One Hydrogenは、この天然水素が低コストで低炭素強度という特性を持つと主張しており、これを活用することで、水素経済への移行を加速できると提言しています。政策提言では、天然水素の探査、生産、輸送、貯蔵を支援するための明確な規制フレームワークとインセンティブの必要性が訴えられています。

背景・業界文脈

これまで、水素生産の焦点は主にグリーン水素（再生可能エネルギー由来）とブルー水素（CCS付き化石燃料由来）に置かれてきましたが、近年、天然水素の地球規模での存在と商業的採掘の可能性が認識され始めています。天然水素は、その生成プロセスが自然であるため、人為的なCO2排出を伴わず、また既存の天然ガスインフラの一部を利用できる可能性も指摘されています。しかし、その探査・評価技術や商業化に向けた規制枠組みはまだ確立されていません。カナダは、天然水素の大きな潜在資源を持つとされており、その政策への統合は、水素経済の多様化と、エネルギー転換における新たなフロンティアを開くことになります。

今後の展望

Element One Hydrogenの政策提言は、カナダ政府が天然水素をクリーンエネルギー戦略の不可欠な部分として認識する上で重要な影響を与える可能性があります。支援的な規制環境が整備されれば、天然水素の探査と開発への投資が加速し、カナダがこの新興分野で世界的なリーダーシップを確立する機会が生まれます。低コストで低炭素な水素供給源の確保は、産業界、輸送、暖房などのセクターにおける脱炭素化を加速させ、カナダ経済の競争力向上にも寄与するでしょう。天然水素の商業的実現は、グローバルな水素供給の多様性を高め、エネルギー安全保障に新たな次元をもたらす可能性を秘めています。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#29 ITM Power、英国プロジェクト進捗と提携により株価目標が上方修正

公開日 2026年07月01日　Simply Wall St　イギリス

概要

ITM Powerの株価目標が1.19ポンドから1.31ポンドに上方修正されました。この評価変更は、ドイツ鉄道子会社DB Systemtechnikとのグリーンエネルギーソリューションに関する意向表明書（LOI）締結や、英国での産業規模グリーン水素プラント開発におけるProtium Green Solutionsとのパートナーシップ進捗など、同社の複数のパートナーシップとプロジェクトの堅調な進捗を反映しています。これらの進展は、ITM Powerの電解槽技術に対する市場の信頼を高め、将来的な成長期待を裏付けるものです。

詳細

主要成果

ITM Powerの株価目標が、以前の1.19ポンドから1.31ポンドへと上方修正されました。この目標株価の引き上げは、同社の複数の重要なパートナーシップとプロジェクトにおける堅調な進捗が評価された結果です。

技術・臨床詳細

上方修正の背景には、主に以下のプロジェクトと提携が含まれます。まず、ドイツの国鉄会社Deutsche Bahn AGの子会社であるDB Systemtechnikとの間で、輸送および重要インフラ部門向けのグリーンエネルギーソリューションに関する意向表明書（LOI）が締結されました。これは、ITMのPEM電解槽技術が鉄道セクターに導入される可能性を探るものです。次に、英国での産業規模グリーン水素プラント開発におけるProtium Green Solutionsとのパートナーシップが進展しています。これらのプロジェクトは、ITM Powerの電解槽が大規模なグリーン水素生産と利用のインフラに統合されつつあることを示しており、同社の技術が幅広い産業で採用される可能性を裏付けています。

背景・業界文脈

ITM Powerは、PEM電解槽技術のリーディングカンパニーとして、世界の水素経済の発展に不可欠な役割を担っています。グリーン水素の需要は、脱炭素化目標の達成に向けて世界的に急増しており、電解槽メーカーには技術革新と生産能力の拡大が求められています。同社の技術は、再生可能エネルギー源から高効率にグリーン水素を製造できるため、多くの産業分野からの関心を集めています。今回の株価目標の上方修正は、これらの市場動向とITM Powerの戦略的な位置づけが、投資家によって高く評価されていることを示しています。

今後の展望

ITM Powerの今後の展望は明るく、進行中のパートナーシップとプロジェクトが成功裏に進展すれば、さらなる成長が期待されます。DB SystemtechnikとのFEED（フロントエンドエンジニアリング設計）調査の進展や、英国での大規模プラントの商業化は、同社の収益と市場シェアに大きく貢献するでしょう。また、このような具体的なプロジェクトの成功事例は、他の潜在的な顧客やパートナーからの関心を引きつけ、グローバルな展開を加速させる可能性を秘めています。ITM Powerは、グリーン水素産業の成長を牽引する主要企業の一つとして、引き続き注目されるでしょう。

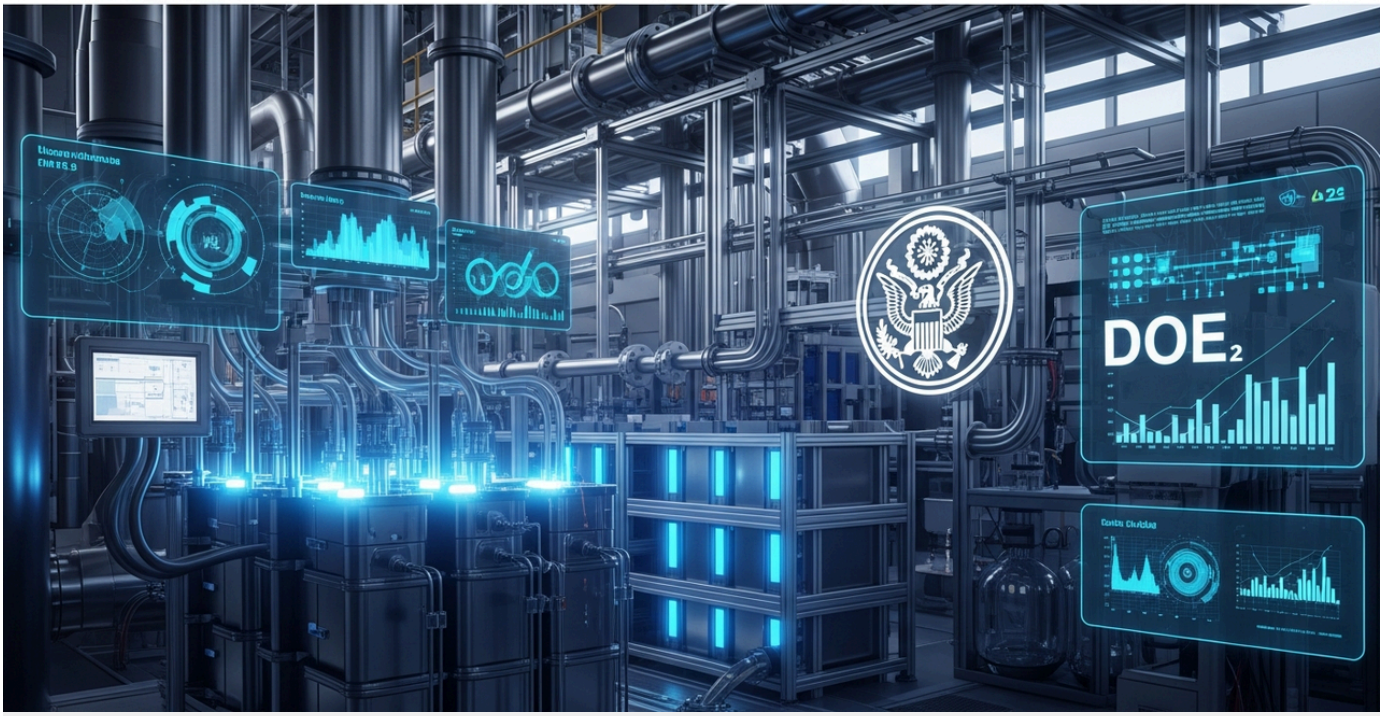
元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#30 米国エネルギー省、水素・燃料電池技術多年度プログラム計画を更新し、コスト目標を明示

公開日 2026年06月30日　Department of Energy　アメリカ

TECHNOLOGY NEWS



概要

米国エネルギー省（DOE）は、水素および燃料電池技術に関する多年度プログラム計画（MYPP）の更新を発表しました。2024年5月に発行されたこの計画は、2026年までに水素製造コストを1kgあたり2ドルに、低温度電解槽システムコストをkWあたり250ドルに削減するという具体的な目標を設定しています。MYPPは、水素経済の出現を加速するためのR&D活動の優先順位と戦略的アプローチを概説し、米国のクリーンエネルギー目標達成に向けたロードマップを示しています。

詳細

主要成果

米国エネルギー省（DOE）は、水素および燃料電池技術に関する多年度プログラム計画（MYPP）の最新版を発表しました。この更新された計画は、水素経済の実現を加速するための明確なR&D目標と戦略的アプローチを提示しており、米国のクリーンエネルギー目標達成に向けたロードマップを示しています。

技術・臨床詳細

2024年5月に発行されたMYPPの更新版は、具体的なコスト削減目標を設定しています。主要な目標として、2026年までに水素製造コストを1kgあたり2ドルに削減すること、そして低温度電解槽システム（PEM電解槽など）のコストをkWあたり250ドルに引き下げることを目指しています。これらの目標達成のため、計画では、電解槽の効率向上、耐久性のある材料の開発、製造規模の拡大、燃料電池システムの性能向上など、多岐にわたる研究開発活動が優先されることを明記しています。また、水素貯蔵、輸送インフラの最適化、安全性に関する研究も含まれます。

背景・業界文脈

クリーン水素は、重工業、長距離輸送、電力貯蔵など、電化が困難なセクターの脱炭素化において極めて重要な役割を果たすと期待されています。しかし、その高コストは普及の最大の障壁の一つでした。DOEのMYPPは、このコスト課題に正面から取り組み、具体的な数値目標を設定することで、技術革新を加速させ、産業界の投資を呼び込むことを意図しています。これらの目標は、バイデン政権の「Hydrogen Shot」イニシアチブと連携しており、10年以内にクリーン水素のコストを80%削減するという目標（1kgあたり1ドルまで）に向けた中間ステップと位置付けられています。

今後の展望

MYPPの更新は、米国の水素経済戦略におけるDOEの強いコミットメントを示しています。2026年までのコスト目標が達成されれば、グリーン水素やクリーン水素が様々な産業分野で競争力のあるエネルギーキャリアとなり、大規模な導入が加速するでしょう。これにより、米国のエネルギー安全保障が強化され、経済成長が促進されるとともに、気候変動目標の達成に大きく貢献します。MYPPに概説されたR&Dの優先順位は、今後数年間の政府資金提供と産業界の努力の方向性を決定づける重要な指針となります。

元記事: https://www.energy.gov/eere/fuelcells/hydrogen-and-fuel-cell-technologies-multi-year-program-plan

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#31 川崎重工、水素液化プラント向け世界初の遠心式水素圧縮機のデモンストレーションを開始

公開日 2026年06月29日　COMPRESSORtech2　日本

概要

川崎重工業は、水素液化プラント専用に設計された世界初の遠心式水素圧縮機のデモンストレーション試験を開始しました。この革新的な技術は、水素の低い分子量に対応するために超高速回転機器と新開発のインペラ技術を組み合わせ、高い圧力比を達成しながら設置スペースを大幅に削減します。本デモンストレーションは、日本の新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が後援するグリーンイノベーション基金プロジェクトの一環であり、液化水素サプライチェーンの効率化とコスト削減に大きく貢献します。

詳細

主要成果

川崎重工業は、水素液化プラント専用に開発された世界初の遠心式水素圧縮機のデモンストレーション試験を開始しました。この画期的な技術は、液化水素の製造プロセスにおいて効率とコンパクト性を大幅に向上させることを目指しています。

技術・臨床詳細

この新型遠心式水素圧縮機は、水素の極めて低い分子量と広範な圧縮比という特性に対応するために、いくつかの革新的な設計が施されています。具体的には、超高速回転する機器と、新開発された高効率インペラ技術を組み合わせています。これにより、従来の往復動式圧縮機や他の遠心式圧縮機と比較して、はるかに高い圧力比を達成しながら、設置スペースを大幅に削減することが可能です。このデモンストレーション試験は、日本の新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が後援するグリーンイノベーション基金プロジェクトの一環として実施されており、実際の運転条件下での性能、信頼性、耐久性の検証が行われます。

背景・業界文脈

液化水素は、その高いエネルギー密度と貯蔵効率から、大規模な輸送や長距離供給に適した形態であり、将来の水素経済において重要な役割を担うと期待されています。しかし、水素を液化するには極低温まで冷却する必要があり、その過程で多くのエネルギーを消費し、設備も大型化するという課題がありました。特に、液化プロセスにおける圧縮機の効率は、全体システムのエネルギー消費とコストに大きく影響します。川崎重工業のこの新しい遠心式圧縮機は、これらの課題を克服し、液化水素サプライチェーンの経済性を大幅に改善するための鍵となる技術です。

今後の展望

世界初の遠心式水素圧縮機のデモンストレーション成功は、液化水素製造技術のブレークスルーとなり、液化水素の普及を加速させる可能性があります。これにより、液化水素の製造コストが削減され、より競争力のある価格で市場に供給できるようになります。この技術は、長距離海上輸送を伴う国際的な水素サプライチェーンの構築、および大型産業プラントやモビリティ分野への液化水素供給において不可欠な要素となるでしょう。川崎重工業は、この革新を通じて、グローバルな水素インフラの発展に貢献し、エネルギー転換を推進するリーダーとしての地位を強化することが期待されます。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#32 中国、水素エネルギーを初めて一次エネルギーデータ分類に組み込み、産業の政策転換を加速

公開日 2026年07月02日　Shanghai Metals Market (SMM)　中国

概要

中国が水素エネルギーを初めて一次エネルギーデータ分類に組み込み、これにより水素産業は「実証・パイロット産業」から「国家の基礎エネルギーカテゴリ」へと位置付けを転換しました。この政策変更は、水素産業が政策補助金主導から政策指導、シナリオ検証、市場志向の運営へと移行する新たな段階に入ることを意味します。この動きは、エネルギー安全保障の確保、国内産業の需給ミスマッチの是正、およびグローバルな水素競争における中国のブレークスルーを目的としています。

詳細

主要成果

中国は、水素エネルギーを初めて国家の一次エネルギーデータ分類に正式に組み込みました。この画期的な決定により、中国の水素産業はこれまでの「実証・パイロット産業」としての位置付けから、「国家の基礎エネルギーカテゴリ」へとアイデンティティを転換し、今後の政策支援と市場発展の道筋が大きく変わることになります。

技術・臨床詳細

この分類変更は、水素エネルギーが、石炭、石油、天然ガス、水力、原子力、再生可能エネルギーといった既存の主要エネルギー源と同等の戦略的地位を獲得したことを意味します。これにより、水素に関する政策は、これまでの個別プロジェクトへの補助金支給から、より包括的な産業指導、技術標準の策定、市場メカニズムの確立へと移行します。水素の生産、貯蔵、輸送、利用に関する技術開発が加速され、特にグリーン水素製造のための電解槽技術、高効率貯蔵ソリューション、長距離パイプライン網の構築などが重点的に推進される見込みです。

背景・業界文脈

中国は世界最大のエネルギー消費国であり、CO2排出量削減とエネルギー安全保障の確保という二重の課題に直面しています。水素エネルギーは、これらの課題に対する重要な解決策として認識されており、脱炭素化が困難な重工業、化学産業、長距離輸送部門における燃料転換を可能にします。これまでも水素関連政策は存在していましたが、一次エネルギーとしての位置付けは、政府が水素産業の成長を国家戦略レベルで全面的に支援する強い意思を示しています。これは、国内外の水素市場における中国の競争力強化と、グローバルなエネルギー転換への貢献を目指すものです。

今後の展望

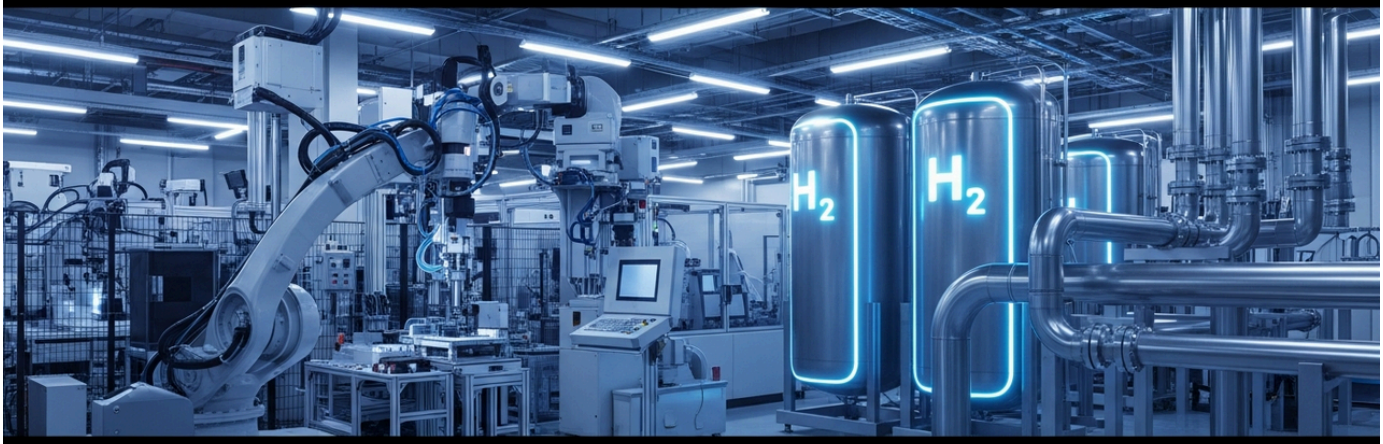
水素エネルギーの一次エネルギー分類への組み込みは、中国の水素産業に劇的な変化をもたらすでしょう。これにより、水素関連の研究開発への投資が加速し、大規模なインフラ整備が推進され、産業チェーン全体のコスト削減と効率向上が期待されます。政策主導から市場志向への移行は、企業の競争とイノベーションを促し、より持続可能でレジリエントな水素エコシステムの構築に繋がります。中国がグローバルな水素市場でリーダーシップを発揮するための重要なステップであり、世界のエネルギー転換の速度と方向性にも大きな影響を与えることが予想されます。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#33 川崎重工、先進製造・液化水素サプライチェーン投資に向け1,900億円超の資金調達計画

公開日 2026年07月02日　TipRanks　日本



概要

川崎重工業は、先進製造技術と液化水素サプライチェーンへの投資を加速させるため、新株発行と気候変動対策債の発行により1,900億円以上を調達する計画を報じられています。この資金は効率向上と脱炭素化を推進し、特に転換社債型新株予約権付社債による約1,010億円は、2031年3月までに液化水素サプライチェーンの構築とフィジカルAIの導入に活用される予定です。同社は報道について「最終決定ではない」と発表していますが、戦略的投資への意欲は明確です。

詳細

主要成果

川崎重工業は、先進製造技術と液化水素サプライチェーンへの投資を加速するため、新株発行および気候変動対策債の発行を通じて、合計で1,900億円以上を調達する計画が報じられました。ただし、同社はメディア報道について「正式な発表に基づくものではなく、最終決定ではない」と説明しています。しかしながら、この報道は、同社の戦略的投資への意欲と資金調達の方向性を示すものです。

技術・臨床詳細

報道された計画によると、この資金は主に二つの領域に配分される見込みです。一つは先進製造技術への投資で、これにより生産効率を向上させ、製造プロセス全体の脱炭素化を推進します。もう一つは、液化水素サプライチェーンの構築への投資であり、特に約1,010億円は2031年3月までに転換社債型新株予約権付社債によって調達され、液化水素の製造、貯蔵、輸送に必要なインフラ構築に充てられるとされます。これには、同社が開発中の世界初の遠心式水素圧縮機などの技術が活用されることが考えられます。また、「フィジカルAI」の導入も計画されており、これは物理空間でのAI活用による効率化や自動化を指します。

背景・業界文脈

川崎重工業は、船舶、鉄道車両、航空機、エネルギー設備など幅広い重工業分野を手掛ける総合メーカーであり、グローバルな脱炭素化の動きの中で、水素関連技術とスマートファクトリー化を重要な成長戦略として位置付けています。液化水素は、その高いエネルギー密度から、長距離輸送や大規模貯蔵に最適な形態であり、将来の水素経済の中核を担うと期待されています。競争が激化するグローバル市場において、大規模な設備投資は技術的な優位性を確立し、サプライチェーン全体を強化するために不可欠です。

今後の展望

報じられた資金調達計画は、川崎重工業が水素社会の実現と先進製造業のリーダーシップを確立するために、大規模な戦略的投資を検討していることを示唆しています。この投資が実行されれば、同社の液化水素サプライチェーン技術は大きく進展し、国際的な水素供給網における中核的なプレーヤーとしての地位を確立するでしょう。同時に、先進製造技術への投資は生産性向上とコスト競争力強化に繋がり、持続可能な成長基盤を構築します。最終的な資金調達の決定と詳細は、今後の同社の公式発表によって明らかにされる予定ですが、その動向は業界全体から注目されています。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#34 Air Liquide、SK hynixの米国AIチップ製造支援へ1億7,000万ドル超を投資

公開日 2026年07月02日　Manufacturing Digital　アメリカ

概要

Air Liquideは、米国インディアナ州に2つの新規生産施設を建設・運営するために1億7,000万ドル以上を投資すると発表しました。この投資は、SK hynixの米国における先端チップパッケージング工場を支援するもので、超高純度窒素、酸素、アルゴン、水素などの産業ガスを長期契約で供給し、AIデータ処理に不可欠な次世代メモリーチップ（HBM）の生産をサポートします。新施設は2028年末までに稼働を開始する予定で、半導体製造サプライチェーンの重要な強化となります。

詳細

主要成果

Air Liquideは、米国インディアナ州に2つの新規産業ガス生産施設を建設・運営するために1億7,000万ドルを超える投資を行うことを発表しました。この多額の投資は、SK hynixの米国における先端チップパッケージング工場の操業を支援することを目的としており、半導体製造サプライチェーンにおける重要な強化となります。

技術・臨床詳細

Air Liquideは、SK hynixとの長期供給契約に基づき、超高純度の窒素、酸素、アルゴン、そして水素を含む主要な産業ガスを供給します。これらのガスは、AIデータ処理に不可欠な次世代メモリーチップ（High Bandwidth Memory: HBM）の製造プロセスにおいて極めて重要です。特に、水素は半導体製造における還元雰囲気やクリーニングプロセスで利用され、チップの性能と信頼性に直接影響を与えます。新施設は、最先端のガス精製技術と安定供給システムを備え、2028年末までに稼働を開始する予定です。これにより、SK hynixは米国で安定した高品質のガス供給を受けることができ、生産効率と品質を最大化できます。

背景・業界文脈

生成AIの急速な発展は、高性能な半導体、特にHBMのような次世代メモリーチップに対する前例のない需要を生み出しています。これに対応するため、半導体メーカーは世界中で大規模な生産能力拡大投資を行っており、その中には米国での製造拠点確立も含まれます。産業ガスは、半導体製造の不可欠な要素であり、その安定供給と品質は、サプライチェーンの強靭性と生産コストに直結します。Air Liquideのような大手ガス供給業者の戦略的投資は、半導体産業の成長を支え、地政学的なサプライチェーンの分散化傾向を反映するものです。

今後の展望

Air Liquideの米国における新規投資は、半導体産業、特にAIチップ製造分野の急成長を支える上で不可欠です。この施設が2028年末までに稼働を開始すれば、SK hynixの米国工場への安定供給を確保し、HBMの量産能力を強化することに貢献します。これは、米国の半導体サプライチェーンのレジリエンスを高め、国内での先端技術製造を促進する上で重要な役割を果たすでしょう。また、Air Liquideにとっては、高成長を続ける半導体市場における地位をさらに強化し、長期的な収益基盤を確立する戦略的な動きとなります。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#35 ケベック州、長期エネルギー戦略で地質学的（天然）水素を推進、2050年までに開発プロジェクトを支援

公開日 2026年07月02日　Mining.com　カナダ

概要

ケベック州は、長期エネルギー政策「Plan de gestion intégrée des ressources énergétiques (PGIRE) 2026-2050」を発表し、地質学的（天然）水素を戦略的イノベーション分野として特定しました。この計画は、2035年までに最低5つの研究プロジェクト、2050年までに2つの水素開発プロジェクトを支援する具体的な目標を掲げ、天然水素の研究、開発、将来的な商業化を推進します。この動きは、ケベック州がクリーンエネルギーのリーダーシップを加速し、新たな資源活用を図るための重要な一歩です。

詳細

主要成果

ケベック州は、その長期エネルギー政策「Plan de gestion intégrée des ressources énergétiques (PGIRE) 2026-2050」を公表し、地質学的（天然）水素を戦略的なイノベーション分野として正式に位置づけました。この画期的な計画は、天然水素の研究、開発、そして将来的な商業化を推進するための長期的な政策枠組みを確立します。

技術・臨床詳細

PGIRE 2026-2050計画は、天然水素に関する具体的な目標を設定しています。2035年までに最低5つの地質学的水素研究プロジェクトを支援し、さらに2050年までには2つの水素開発プロジェクトを支援することを目指します。天然水素は、地殻内で自然に生成される水素であり、その生成プロセスが人為的なCO2排出を伴わない点で、グリーン水素やブルー水素とは異なります。この計画では、天然水素の探査技術の向上、生産コストの最適化、そして環境影響評価を含む包括的な研究開発が推進されます。これにより、資源の特定から商業規模での生産に至るまでのロードマップが描かれます。

背景・業界文脈

ケベック州は、豊富な水力発電資源を持つため、クリーンエネルギー生産においてすでに強固な基盤を持っています。しかし、地質学的水素の探査と開発は、エネルギーポートフォリオをさらに多様化し、新たな経済機会を創出する潜在力があります。世界的に、天然水素はクリーンで低コストな水素供給源として注目され始めており、その商業的可能性に関する認識が高まっています。ケベック州のこの動きは、北米地域における水素経済の発展を加速させ、持続可能なエネルギー移行の新たなモデルを提示するものです。

今後の展望

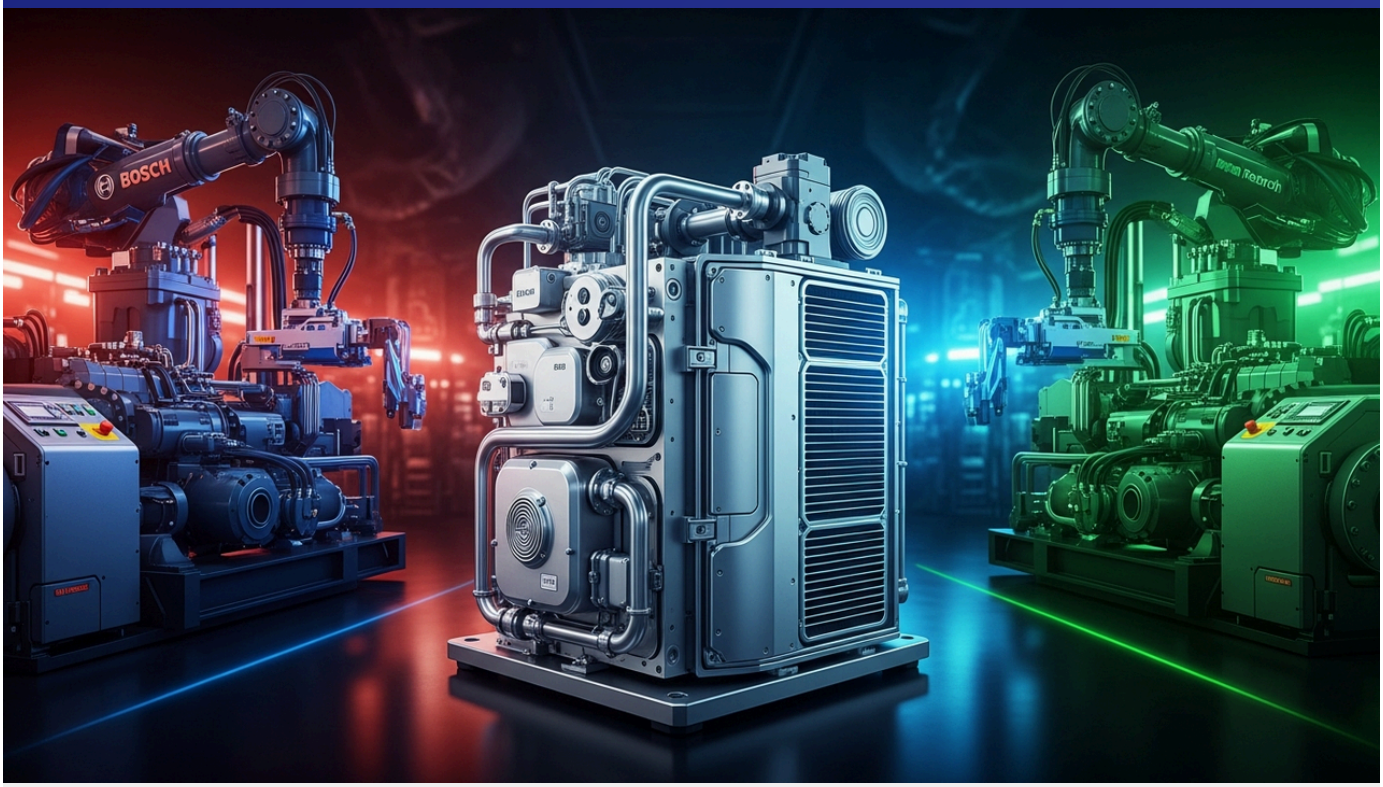
ケベック州によるPGIRE 2026-2050計画の発表と、天然水素への注力は、同州がクリーンエネルギー分野でのリーダーシップを強化する強い意志を示しています。研究および開発プロジェクトへの投資は、天然水素技術の成熟を加速させ、将来的な商業生産への道を開くでしょう。これにより、ケベック州はエネルギー自給率を高め、国内外の脱炭素化目標達成に貢献するとともに、新たな産業の創出と雇用機会の拡大を通じて経済的な恩恵を享受することが期待されます。天然水素の成功は、グローバルなエネルギー供給の選択肢を広げ、より持続可能な未来への移行を支援する重要な要素となるでしょう。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#36 Bosch Rexrothと川崎重工がオフハイウェイ機械向け水素燃料電池で提携

公開日 2026年07月02日　[Source not available in snippet]　日本



概要

Bosch Rexrothと川崎重工業は、オフハイウェイ機械に水素燃料電池を統合する計画を発表し、ゼロエミッションパワートレインの開発を目指す戦略的提携を締結しました。この協力は、建設機械や鉱山車両といった分野で水素燃料電池技術の実用化を推進し、重機の脱炭素化を加速させます。今回の提携により、両社の専門知識を融合し、過酷な環境下での燃料電池の耐久性と効率性を高めることが期待されます。

詳細

主要成果

Bosch Rexrothと川崎重工業は、オフハイウェイ機械（建設機械、農業機械、鉱山車両など）に水素燃料電池を統合するための戦略的パートナーシップを発表しました。この提携は、これらの重機部門におけるゼロエミッションパワートレインの実現に向けた重要な一歩となります。

技術・臨床詳細

この提携では、Bosch Rexrothの油圧および電子制御システムの専門知識と、川崎重工業の水素燃料電池技術および重工業における豊富な経験が融合されます。目標は、過酷なオフハイウェイ環境下での燃料電池の耐久性、効率性、信頼性を確保することです。具体的には、建設機械や鉱山車両に適合するよう、燃料電池システムのコンパクト化、振動・衝撃への耐性強化、そして広範な温度範囲での安定稼働能力の最適化が図られます。これにより、ディーゼルエンジン駆動の既存機械から、水素燃料電池駆動のゼロエミッション機械へのスムーズな移行を可能にします。

背景・業界文脈

建設、鉱業、農業などのオフハイウェイ部門は、CO2排出量削減と大気汚染対策の観点から、急速な脱炭素化が求められています。これらの機械は、高出力と長時間の稼働を必要とするため、バッテリー電気自動車では対応が難しいケースが多く、水素燃料電池が最適なソリューションとして注目されています。燃料電池は、迅速な燃料補給が可能で、ディーゼルに匹敵する稼働時間と出力を提供できるため、重機の現場での運用ニーズに適しています。Bosch Rexrothと川崎重工業のような業界大手による提携は、この市場セグメントにおける水素技術の商業化を加速させる強力なシグナルとなります。

今後の展望

Bosch Rexrothと川崎重工業のパートナーシップは、オフハイウェイ機械の脱炭素化における大きな進展を促すでしょう。この提携から生まれた水素燃料電池システムは、将来的に建設現場や鉱山、農場などで広く採用され、これらの産業における環境負荷を大幅に低減することが期待されます。長期的な目標は、市場での競争力を持つゼロエミッション重機を開発し、グローバルなクリーンモビリティへの移行を加速させることです。両社の共同開発は、水素燃料電池技術が多岐にわたる産業分野で主流となるための重要な道筋を示すものとなります。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#37 オーストラリアOrica社、年間4,700トン生産のHunter Valley水素ハブに最終投資決定 — 天然ガス使用量7.5%削減へ

公開日 2026年07月01日　Mining Weekly　オーストラリア

概要

オーストラリアの化学大手Orica社は、ニューサウスウェールズ州Kooragang IslandにおけるHunter Valley水素ハブプロジェクトに対し、最終投資決定（FID）を行いました。この商用規模の再生可能水素製造施設は、50MWの電解槽を備え、年間約4,700トンのグリーン水素を生産する計画です。Oricaの既存アンモニア製造プロセスにおける天然ガスの使用量を約7.5%削減することを目指しており、脱炭素化に向けた具体的な一歩となります。建設は2026年末までに開始され、2029年初頭に初回生産が予定されており、オーストラリア政府およびニューサウスウェールズ州政府からの多大な資金援助も受けています。

詳細

主要成果

オーストラリアの化学・爆薬製造大手Orica社は、同国ニューサウスウェールズ州Kooragang Islandの既存アンモニア製造施設に統合される、画期的なHunter Valley水素ハブプロジェクトに対し、最終投資決定（FID）を下しました。このプロジェクトは、同社のアンモニア生産における天然ガス使用量を年間約7.5%削減することを目標とし、年間4,700トンのグリーン水素生産能力を持つ50MWの電解槽を設置する予定です。

技術・経済詳細

Hunter Valley水素ハブは、最先端の50MW電解槽技術を採用し、再生可能エネルギー源からグリーン水素を生成します。この水素はOrica社のアンモニア製造プロセスで消費される天然ガスの一部を代替し、生産プロセス全体の炭素排出量を大幅に削減します。プロジェクトの総投資額は多額に上り、連邦政府の連邦水素ハブ開発基金およびニューサウスウェールズ州政府のジョブズ・フォー・ネッツェロ（J4N）基金からの戦略的な資金援助によって支えられています。これにより、プロジェクトの経済的実行可能性と長期的な持続可能性が強化されます。

背景・業界文脈

世界のエネルギー転換が進む中で、オーストラリアはグリーン水素生産の主要拠点として台頭しており、豊富な再生可能エネルギー資源を強みとしています。Orica社のこの決定は、同社が脱炭素化目標を達成し、同時に競争力を維持するための戦略的な動きです。化学産業、特にアンモニア製造は、エネルギー集約型であり、脱炭素化が喫緊の課題となっています。本プロジェクトは、化石燃料依存度を低減し、持続可能な製造モデルへの移行を加速するモデルケースとなります。

今後の展望

建設は2026年末までに開始され、2029年初頭には初回生産が予定されています。Hunter Valley水素ハブは、オーストラリアにおけるグリーン水素経済の発展を加速させ、地域経済に新たな雇用と投資機会をもたらすことが期待されています。このプロジェクトは、他の重工業分野における脱炭素化への道筋を示すものとして、国際的な注目を集めるでしょう。Orica社は、このイニシアチブを通じて、持続可能な未来へのコミットメントを明確に示しています。

元記事: https://www.miningweekly.com/article/australias-orica-reaches-final-investment-decision-for-hunter-valley-hydrogen-hub-2026-07-01

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#38 Verde Hydrogen、China Coal Energy Groupから中国オフグリッド・グリーン水素PJ向けに25MW電解槽供給契約を獲得

公開日 2026年07月03日　ChemAnalyst　中国

概要

マサチューセッツ州セントートンを拠点とする水素技術企業Verde Hydrogenは、China Coal Energy Groupから25MW電解槽の供給契約を獲得しました。この契約は、China Coal Energy Groupの主力オフグリッド再生可能グリーン水素プロジェクトの第一段階に特化したものです。本契約はVerde Hydrogenの世界の水素市場における地位を強化するとともに、中国の精製、化学、鉄鋼、肥料、メタノールといった主要産業の低炭素化への移行を支援します。この電解装置は、グリーン水素の効率的な生産と商業利用を促進することが期待されています。

詳細

主要成果

マサチューセッツ州セントートンの先進的な水素技術企業Verde Hydrogenは、中国の巨大企業であるChina Coal Energy Groupとの間で、25MWの電解装置供給に関する画期的な契約を締結しました。この大型契約は、China Coal Energy Groupが推進する主力オフグリッド再生可能グリーン水素プロジェクトの第一段階を支えるもので、中国の重工業部門における大規模な脱炭素化に向けた重要な一歩となります。

技術・供給詳細

Verde Hydrogenが供給する25MWの電解装置は、特にオフグリッド環境での再生可能エネルギーからの高効率グリーン水素製造に特化しています。このシステムは、精製、化学、鉄鋼、肥料、メタノールといったエネルギー多消費型産業のニーズを満たすように設計されており、化石燃料由来の水素に代わる持続可能なソリューションを提供します。本契約は、Verde Hydrogenの国際的な展開力を示すだけでなく、大規模なグリーン水素製造プロジェクトにおける同社の技術的優位性を確立するものです。

背景・業界文脈

中国は世界最大のエネルギー消費国の一つであり、気候変動対策とエネルギー安全保障の観点から、クリーンエネルギーへの移行を加速しています。特にグリーン水素は、達成困難な産業分野の脱炭素化を可能にする重要な鍵として位置づけられています。China Coal Energy Groupのような主要企業がグリーン水素に投資することは、国の政策と整合しており、再生可能エネルギーと水素技術の融合が産業変革の原動力となっていることを示しています。

今後の展望

この25MW電解槽の導入は、中国のグリーン水素インフラを大幅に強化し、同国が掲げる脱炭素目標の達成に貢献します。Verde Hydrogenにとって、この契約は中国市場への足がかりとなるだけでなく、同社の電解装置技術が世界的に認められたことを意味します。今後、中国の他の産業部門や、同様の脱炭素化課題を抱える国際市場において、グリーン水素ソリューションの需要がさらに高まることが予想され、Verde Hydrogenの成長を加速させる可能性があります。

元記事: https://www.chemanalyst.com/NewsAndDeals/NewsDetails/verde-hydrogen-wins-25-mw-electrolyzer-supply-contract-43125

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#39 インド、グリーン水素の信頼性を高める「グリーン水素認証ポータル（GHCI）」を立ち上げ

公開日 2026年06月30日　Organiser　インド

概要

2026年6月、インドはグリーン水素認証ポータル（GHCI）を正式に立ち上げ、国内のグリーン水素経済に透明性と信頼性をもたらす重要な措置を講じました。新・再生可能エネルギー省（MNRE）が開発したこのデジタルプラットフォームは、インドのグリーン水素認証スキームに基づき、厳格な認証と規制遵守を促進することを目的としています。GHCIは市場の整合性を確保し、業界で懸念される「グリーンウォッシング」を防止することで、投資家と消費者の双方からの信頼を構築し、インドの野心的な脱炭素化目標の達成を強力に支援します。

詳細

主要成果

インド政府は、国内のグリーン水素経済の透明性と信頼性を確保するため、「グリーン水素認証ポータル（GHCI）」を立ち上げました。このデジタルプラットフォームは、新・再生可能エネルギー省（MNRE）によって開発され、インドのグリーン水素認証スキームに準拠した厳格な認証プロセスと規制遵守を促進します。GHCIの導入により、グリーンウォッシング（見せかけだけの環境配慮）が防止され、国内外の投資家と消費者からの信頼が向上し、インドのクリーンエネルギーミッションが強化されることが期待されます。

技術・規制詳細

GHCIは、グリーン水素の生産から供給までのバリューチェーン全体をカバーする包括的な認証メカニズムを提供します。このポータルは、生産者、サプライヤー、消費者がグリーン水素製品の原産地、製造プロセス、およびライフサイクル排出量に関する詳細な情報を追跡・検証することを可能にします。これにより、市場参加者は、実際の炭素排出削減効果を正確に評価でき、信頼性の高いグリーン水素製品が市場に流通するようになります。MNREは、このスキームを国際的な基準と整合させ、インド産グリーン水素の国際競争力を高めることも視野に入れています。

背景・業界文脈

インドは、世界的なエネルギー転換において中心的な役割を果たすことを目指し、「国家グリーン水素ミッション」を推進しています。このミッションは、国内のグリーン水素生産能力を飛躍的に向上させ、化石燃料への依存を減らし、輸出ハブとしての地位を確立することを目的としています。GHCIの導入は、この広範な戦略の中核をなし、グリーン水素市場の健全な発展を保証するために不可欠なインフラを提供します。認証制度の整備は、大規模な投資を呼び込み、安定したサプライチェーンを構築するための基盤となります。

今後の展望

GHCIの運用開始は、インドが2070年までのネットゼロ目標達成に向けて確固たる意思を持っていることを示しています。このポータルは、グリーン水素プロジェクトの実施を加速させ、関連産業の成長を促進し、新たな雇用創出に貢献するでしょう。将来的には、GHCIはインドのグリーン水素が世界市場で認知され、競争力を持つための重要なツールとなることが期待されます。これにより、インドは国内消費だけでなく、世界の脱炭素化にも貢献する可能性を秘めています。

元記事: https://organiser.org/2026/06/30/360385/bharat/green-hydrogen-certification-portal-launched-how-india-is-building-a-transparent-self-reliant-clean-energy-ecosystem/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#40 BrookfieldとBloom EnergyがAIデータセンター向け電力供給提携を250億ドルに拡大、SOFCでオンサイト発電強化

公開日 2026年07月01日　Bloom Energy Press Releases　アメリカ

概要

Brookfield Asset Managementは、燃料電池メーカーBloom EnergyとのAIデータセンター向け電力インフラ提携を、当初の50億ドルから250億ドルへと5倍に拡大することで合意しました。この大幅な資金提供枠の拡大は、世界中で急速に増大するAIワークロードの需要に応えるため、データセンター向けオンサイト電力インフラの構築と資金調達を加速することを目的としています。Bloom Energyの固体酸化物燃料電池（SOFC）技術は、送電網の制約を回避し、データセンターに迅速かつ信頼性の高い電力供給ソリューションを提供することで、AIの進化を支えます。この提携は、分散型エネルギーソリューションがAI時代の電力課題を解決する鍵となることを示しています。

詳細

主要成果

Brookfield Asset Managementと燃料電池大手Bloom Energyは、世界中のAIデータセンター向け電力インフラ構築を目的とした戦略的パートナーシップの規模を、これまでの50億ドルから驚異的な250億ドルへと5倍に拡大すると発表しました。この巨額のコミットメントは、人工知能の急速な進化に伴い、電力供給に深刻な制約が生じているデータセンター業界における緊急のニーズに対応するものです。

技術・金融詳細

このパートナーシップの拡大は、主にBloom Energyの固体酸化物燃料電池（SOFC）技術を活用し、AIデータセンター向けのオンサイト電力ソリューションを提供することに焦点を当てています。SOFCは、高効率で多様な燃料（天然ガス、バイオガス、水素など）を使用できる特性を持ち、電力網への依存度を低減しながら、持続可能で信頼性の高い電力を直接データセンターで生成します。これにより、送電網インフラのボトルネックを回避し、AIワークロードの増大に迅速に対応することが可能となります。Brookfieldの250億ドルという資金枠は、これらの先進的な分散型発電プロジェクトの迅速な展開を支えることになります。

背景・業界文脈

AI技術の爆発的な成長は、データセンターの電力消費量を劇的に増加させ、既存の電力インフラに前例のない負荷をかけています。従来の集中型電力供給モデルでは、この需要の急増に追いつくことが困難になりつつあります。Bloom EnergyのSOFCのような分散型オンサイト発電ソリューションは、この課題に対する魅力的な解決策を提供します。これにより、データセンターは、場所の制約を受けずに電力を確保し、運用効率を高め、カーボンフットプリントを削減できるようになります。

今後の展望

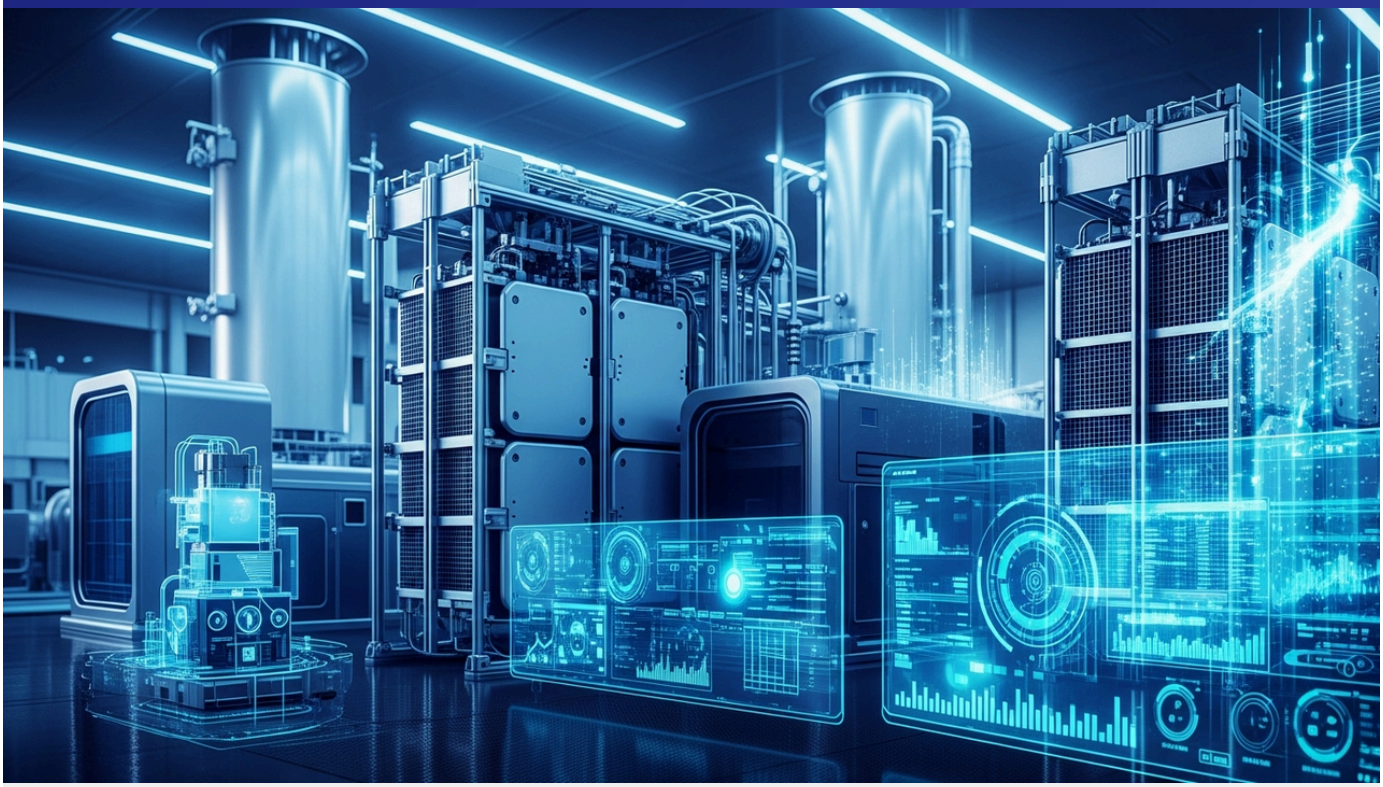
今回の提携拡大は、エネルギー産業とテクノロジー産業の融合が加速していることを示しており、AI時代の電力供給のあり方に大きな変革をもたらすでしょう。Bloom Energyは、このパートナーシップを通じて、世界のデータセンター市場における主要な電力ソリューションプロバイダーとしての地位をさらに確立します。Brookfieldの資本力とBloom Energyの革新的な技術の組み合わせは、AIインフラの持続可能な成長を可能にし、将来のデジタル経済を支える新たな標準を確立することが期待されます。この動きは、再生可能エネルギーと分散型発電の重要性を強調し、業界全体の脱炭素化を推進する可能性を秘めています。

元記事: https://investor.bloomenergy.com/press-releases/press-release-details/2026/Brookfield-and-Bloom-Energy-Expand-AI-Infrastructure-Partnership-to-25-Billion-Fivefold-Increase-to-Build-and-Finance-Rapid-Power-for-AI-Infrastructure/default.aspx

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#41 Plug Power、2026年第1四半期決算で売上高1.63億ドルを達成し、EPS予想を上回る-0.08ドルを報告

公開日 2026年07月03日　MarketBeat　アメリカ



概要

水素燃料電池ソリューションを提供するPlug Powerは、2026年5月11日に発表した第1四半期決算で、アナリスト予想を上回る売上高1億6,351万ドルを達成し、前年同期比で22.3%の増収を記録しました。また、1株当たり損失（EPS）は予想平均を改善する-0.08ドルとなりました。同社は、マテリアルハンドリングおよび電解槽事業が堅調に成長したことを報告しており、コスト最適化と燃料調達効率化によって粗利益率も大幅に改善しました。これらの成果は、同社が市場の期待に応えつつ、財務基盤を強化していることを示しています。

詳細

主要成果

水素燃料電池と電解槽技術のリーディングカンパニーであるPlug Powerは、2026年第1四半期決算において、予想を上回る堅調な業績を発表しました。売上高は前年同期比22.3%増の1億6,351万ドルに達し、アナリストの予想平均値を大きく超えました。また、1株当たり損失（EPS）は-0.08ドルと、予想されていたよりも改善された数値を記録し、同社の財務パフォーマンスの向上が見られました。

事業進捗と財務詳細

Plug Powerの好調な業績は、主にマテリアルハンドリング事業と電解槽事業の両方における力強い成長に牽引されています。特に、電解槽の需要は世界的なグリーン水素生産プロジェクトの増加に伴い拡大しており、同社はこの分野で戦略的な地位を確立しています。さらに、同社はコスト最適化と燃料調達効率の改善に向けた取り組みを強化しており、これにより粗利益率が著しく改善しました。これは、単なる売上増だけでなく、収益性の向上にも焦点を当てた経営戦略が実を結びつつあることを示しています。

背景・業界文脈

水素エネルギー市場は、世界的な脱炭素化の動きと政府の強力な支援策により、急速な拡大期にあります。Plug Powerは、フォークリフトなどのマテリアルハンドリング分野で長年の実績を持ち、最近では大規模な電解槽プロジェクトにも注力することで、この成長市場での存在感を強化しています。主要な産業セクターが化石燃料から水素へと移行する中で、同社の技術とソリューションは、持続可能なサプライチェーンとエネルギーシステムの構築に不可欠なものとなっています。

今後の展望

Plug Powerは、今後も電解槽の生産能力拡大と燃料電池技術の進化に投資を続けることで、市場におけるリーダーシップを維持することを目指しています。今回の決算発表は、同社が成長戦略を着実に実行し、財務健全性を向上させていることを投資家に示しました。継続的な技術革新と効率化の取り組みを通じて、Plug Powerはグリーン水素エコノミーの実現に向けた重要な役割を果たし、長期的な企業価値向上を目指すことが期待されます。これにより、同社はクリーンエネルギー革命の中心的なプレーヤーとしての地位を確立していくでしょう。

元記事: https://www.marketbeat.com/stocks/NASDAQ/PLUG/earnings/

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#42 FuelCell Energy、米国クリーンエネルギー輸出推進のためEXIM銀行から4,900万ドルの融資を確保

公開日 2026年06月29日　GlobeNewswire (via FuelCell Energy's press releases)　アメリカ

概要

FuelCell Energy, Inc.は、米国輸出入銀行（EXIM）から4,900万ドルの融資を確保しました。この資金は、同社が製造する米国製クリーンエネルギーソリューションの輸出を促進し、主要な国際市場における需要の高まりに対応するために利用されます。この融資は、世界的な脱炭素化およびエネルギー安全保障の目標を支援する上で、FuelCell Energyの燃料電池技術が重要な役割を果たすことを強調しています。これにより、同社は海外での事業拡大を加速し、クリーンエネルギー技術の普及に貢献します。

詳細

主要成果

FuelCell Energy, Inc.は、米国輸出入銀行（EXIM）から4,900万ドルという巨額の融資を確保しました。この重要な資金は、同社の米国製クリーンエネルギーソリューションの輸出能力を大幅に強化し、世界の主要市場からの需要増に対応するための戦略的イニシアチブを支援することを目的としています。

技術・金融詳細

この4,900万ドルのEXIM融資は、FuelCell Energyの製品、特に高度な燃料電池発電プラットフォームの国際的な展開を促進するために活用されます。同社の燃料電池技術は、分散型発電、水素製造、炭素回収など多岐にわたる用途で、高効率かつ低排出のエネルギーソリューションを提供します。この融資は、米国製のクリーンエネルギー技術の輸出を支援するEXIMの使命と完全に合致しており、同社が海外の成長市場で競争力を維持し、拡大していくための財政的な後押しとなります。

背景・業界文脈

グローバルなエネルギー転換と脱炭素化の動きが加速する中で、世界各国は持続可能で信頼性の高いエネルギー源を求めています。FuelCell Energyのような企業が提供する燃料電池技術は、従来の化石燃料発電と比較して環境負荷が低く、エネルギー安全保障を高める可能性を秘めているため、国際的に注目されています。米国政府は、国内のクリーンエネルギー産業を支援し、その技術が世界市場で採用されるよう、EXIMのような機関を通じて積極的に輸出促進を図っています。

今後の展望

このEXIM融資の確保は、FuelCell Energyがグローバル市場での存在感を拡大し、世界的な脱炭素化の取り組みに貢献するための重要なマイルストーンとなります。同社は、この資金を活用して製造能力を増強し、海外プロジェクトへの供給体制を強化する予定です。これにより、FuelCell Energyは、国際的な顧客基盤を拡大し、世界のエネルギーミックスにおける燃料電池技術の役割をさらに確固たるものにすることが期待されます。これは、米国がクリーンエネルギー技術の主要輸出国としての地位を確立する上でも重要な意味を持ちます。

元記事: #

収集日: 2026年07月03日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)